

平成18年度

新宿区協働事業提案審査報告書

新宿区協働事業提案制度審査会

平成18年12月

「新宿区協働事業提案審査報告書」

目次

1	協働事業提案制度の概要	1
2	選考に至る経過	1
3	18年度区の課題設定	4
4	審査基準	5
5	事業提案審査等に関する今後の検討課題	6
6	18年度協働事業提案採択事業	14
7	採択事業の選定理由	15
8	採択事業	16
	(1) 中学卒業後からの青年支援対策	
	東京YMCA“liby”(リビー)	16
	(2) 子どもの健全育成を目指す外国人家庭と地域家庭の共生作り	
	みんなのおうち	22
	(3) 受身から問題発見・解決型の子育て支援者になるための講座	
	ゆったりーの	28
	(4) 夏目漱石生誕140周年記念事業	
	漱石山房を考える会	33
	(5) 元気がでるシニアサロン(高齢者の居場所づくり)	
	テラ・ガーデン新宿、共住懇、ゆうゆう	39
9	公開プレゼンテーション傍聴者の意見	42
資料編		
	資料1: 18年度協働事業提案概要	45
	資料2: 協働事業提案課別事前シート作成件数	50
	資料3: 18年度協働事業提案一次審査結果	51
	資料4: 18年度協働事業提案最終審査結果	52

平成18年12月5日

新宿区長 中山 弘子 様

平成18年度協働事業提案について次のとおり審査しましたので、報告します。

協働事業提案制度審査委員

	委員の区分	氏名	職名
1	学識経験者	会長 久塚 純一	早稲田大学社会科学総合学院教授
2	非営利活動団体 構成員	副会長 宇都木 法男	NPO 事業サポートセンター専務理事
3		鈴木 歩	シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 事務局次長
4	事業者	伊藤 清和	富士ゼロックス東京(株) CSR部社会貢献推進グループ
5	新宿区社会福祉 協議会職員	伊藤 圭子	新宿区社会福祉協議会 ボランティアセンター課長
6	区職員	猿橋 敏雄	企画政策部長
7		野口 則行	地域文化部長

新宿区協働事業提案の審査を終えて

新宿区協働支援会議では、昨年度「協働事業提案制度の導入」について検討を行ない、平成18年3月に報告書にまとめ新宿区長に提出しました。この「協働事業提案制度」は、その報告を受け区が事業の実施に向けた検討を行ない、今年度新たに導入したものです。

これまで、「公共」にかかわる多くの領域については、行政がその必要性を判断し事業を行うという基本的スタイルが踏襲されてきました。しかし、地域課題や社会的課題の多様化は、新しい「公共性」の認識と対応という、これまでとは異なった行政のありようの必要性を提示することになっています。一方、地域に目を転じると「地区協議会」等、地域課題を地域自らが解決していこうとする気運の高まりがあることも重要です。その結果指摘できるのは、「区民のみんなにかかわること」を、行政のみでなく、多様な主体が、主体性・自主性を尊重しながら、お互いの役割分担を改めて見直し、「新たな公共サービス」を協働して創出することの重要性ということになります。

平成16年3月に「新宿区・地域との協働推進計画」が策定されました。これは、「協働を推進するための環境づくり」、「区政への区民参画の推進」、「協働と参画を進める区の組織のあり方」という三つの側面から、具体的で実効性のある仕組みづくりとして策定されたものです。

「協働事業提案制度」は、この計画の基本目標の考え方にに基づき、地域課題や社会的課題を協働して解決していくため、地域の市民活動団体の新たな発想や手法を活かした提案のもとに、提案団体と新宿区が協働して事業を実施していくものです。これにより協働の実践を積み重ね、「新たな公共サービス」を拡充し、区民満足度を高めるとともに、具体的な事業の取り組みのもとに、「協働」というものをわかりやすく周知していくことが必要と考えます。

今年は初年度にもかかわらず、30もの事業提案があり、高い関心をもってこの制度が受け入れられたことは、「協働」「参画」の視点から今後の区政のあり方を考えるときに大変有意義なことと思います。地域における様々な課題を解決し、区民が暮らしやすい社会だと実感していくために、様々な分野で専門性をもったNPOをはじめ、地域で活動をされている団体の方々と区とが互いに知恵を出し合って、創意工夫をしながら地域の課題に取り組むために、この「協働事業提案制度」が、今後重要な役割を果たしていくものと考えます。

なお、この報告書は、新宿区協働事業提案制度実施要綱第9条第3項に基づき、新宿区協働事業提案制度審査会から新宿区長に報告するものです。

新宿区協働事業提案審査会

会長 久塚 純一

1 協働事業制度の概要

平成18年度から新たに取組んだ制度で、特定非営利活動法人またはボランティア活動団体及び市民活動団体等の社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体（以下「NPO」という。）の専門性や柔軟性等を活かした事業の提案を募集し、NPOと区が協働することで、地域課題の効果的・効率的な解決を図るとともに、区行政への住民参加の促進を図り、暮らしやすい地域社会を実現することを目的とする制度です。

「NPOの自由な発想による事業」と「区から提起する課題に対して提案する事業」の2つの区分のいずれかの協働事業について募集します。協働事業の実施に必要な費用については、1協働事業当たり500万円を上限とします（ただし、概ね100万円以上の事業）。協働事業は、募集年度の翌年度内に実施の単年度事業とします。ただし、必要と認めるときは、募集年度の翌々年度内に実施する単年度事業とすることができます。

提案された事業は、第1次審査（書類審査）、第2次審査（公開プレゼンテーション）を経て事業化を決定します。提案された事業は必要に応じて区の担当部局ヒアリングを実施し、最終選考された事業は、提案したNPOと区の担当部局において協議を行い、具体的な事業企画として練り上げていき、区の事業としてNPOと区が協働して実施するものです。

審査にあたっては、学識者、NPO、事業者、公募区民などから構成される「新宿区協働支援会議委員」と区の職員から構成される「新宿区協働事業提案制度審査会」が審査を行い、区が協働事業を決定します。

2 選考に至る経過

18年度新宿区協働事業提案の選考経過は次のとおり

18年度「新宿区協働事業提案制度」説明会の開催	
参加者約60名 1、2回とも内容は同じ	
第1回説明会	6月22日（木）10：00～12：00 第二分庁舎1-
第2回説明会	6月27日（火）18：00～20：00 第二分庁舎1-
内容：新宿区協働事業提案募集の説明 （「18年度協働事業提案募集の手引き」配布）	
区からの課題募集の説明	
1 地域の文化・歴史の発掘（地域文化部文化国際課）	
2 高齢者の能力発揮の場といきがいづくり（健康部健康いきがい課）	



18年度新宿区協働事業提案の周知

- ・ 6月7日ケーブルテレビ（区の情報の時間帯にテロップにて放映）
- ・ 6月7日 区のホームページ 協働のひろばにて周知
- ・ 6月15日号区広報に掲載
- ・ 区民会議および各地区協議会にチラシの配布
- ・ 区施設にポスターの掲示
- ・ 中間NPO（支援会議委員）シーズのホームページで紹介



提案の募集

- ・ 募集期間 6月15日～8月10日
- ・ 提案件数 30件
 - 内訳 NPOの自由な発想による事業提案 19件
 - 区からの課題に提起する事業提案 11件
 - 1 地域の文化・歴史の発掘 4件
 - 2 高齢者の能力発揮の場といきがづくり 7件

提案後、取り下げをしたもの 1件



提案された事業については、区の関連事業課において事業企画内容についての意見を付した事前シートを作成し、一次選考の際の資料とした。

関連事業課数 20課

事前シート作成件数 52件



第1回審査会：一次書類審査

- ・ 一次審査において10事業を選考し、二次審査の対象とした。
- 8月31日開催の協働事業提案制度審査会において30事業の提案のうち取り下げのあった1件を除く29の事業について審査を行った。ただし、2事業については、事業実施を伴わない調査を目的とする事業として協働事業提案制度実施要綱第3条第2項に抵触するとして採点対象から除外した。

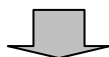


一次審査通過団体と事業担当課との意見交換会の実施

9月6日(水)～9月25日(月)

1団体ごと1時間30分程度の意見交換会を行った。地域調整課職員も事務局として参加した。

各事業担当課は意見交換会の後、意見書を作成して審査会へ提出し、二次審査の資料とした。



第2回審査会：第二次審査（公開プレゼンテーション）

・10月10日(火)13:00～17:50

四谷地域センター第2・3集会室 参加者約30名

一次審査で通過した10団体の提案について提案者が事業内容を説明し、審査会委員が質問し提案団体及び事業担当課が答える形で質疑を行なった。

プレゼンテーション時間 1団体15分

質疑応答時間 1団体10分



第3回審査会：最終選考審査会

・10月16日(月)10:00～12:30

二次審査（公開プレゼンテーション）を行なった10事業のうち5事業を協働事業として採択した。審査会から報告を受け区が事業実施を決定する。



新宿区協働事業提案制度審査会から区長への審査結果報告

・12月5日(火)報告書の提出

3 18年度区の課題設定

18年度区が設定した課題は以下のとおり。

区から課題を提起する事業

	テーマ又は事業名	概要	所管課
1	地域の文化・歴史の発掘	地域の文化・歴史の発掘を通じて、文化・歴史に対する区民の理解を深め、地域への愛着を深めるとともに、区の文化・歴史を内外発信し、文化の薫るまち新宿をアピールするような事業。 たとえば、来年は新宿で生まれ、亡くなられた文豪「夏目漱石」の生誕 140 年にあたるので、それに関連した事業など。	地域文化部 文化国際課
2	高齢者の能力発揮の場と生きがいづくり	高齢化が着実に高まってきている状況の中で、高齢者がサービスの受け手としてだけでなく、サービスの担い手として、いきいきと積極的に地域社会に参加するような事業。 たとえば、2007 年問題として、これから地域に帰ってくる団塊の世代の力を活用し、高齢者自身がサービスの担い手となれる事業など（子育て支援、防犯・防災など）	健康部健康いきがい課

4 審査基準

18年度の採点方法は一次、二次審査とも下記の審査基準に基づき、各委員60点満点で採点し、委員の合計点により選定した。

審査の基準

審査項目		審査の視点
協働の必要性	地域課題・社会的課題	【ニーズ性】 5点 提案内容は、地域課題・社会的課題(ニーズ)を捉えているか。
	課題解決の手法・形態	【協働の手法・形態】 5点 課題解決のために協働という手法が必要とされているか。また、その手法は、先進性、先駆性等工夫やアイデアがあり、新しい視点があるか。 地域との連携など課題解決に向け、必要な連携が図られているか。
	役割分担	【役割分担の妥当性】 5点 提案団体と当区との役割分担が明確かつ妥当なものであるか。また、行政のノウハウの活用など、多様な役割が引き出されているか。
	事業効果	【相乗効果】 10点 提案団体と当区とが協働することにより事業をより効果的(お互いを補完したり、お互いの特性を発揮することにより、効果的实施が可能となることなど)に行うことが期待できるか。
		【区民満足度】 10点 区民の満足度が高まり、具体的な効果・成果(質の高い又は多様なサービス等を受けることができること等)が期待できるか。
事業の実現性	企画力	【団体の企画力】 5点 地域課題を効果的・効率的に解決する事業企画となっているか(予算見積もりを含む。)
	実現性	【計画の実現性】 5点 計画どおりに実施が可能であるか(地域住民等の理解を得られているか。また、法的な問題等により実現が困難となっていないか。)
	実施能力	【団体の実施能力】 5点 提案団体は、当該事業を実施する上での、専門的な知識や経験を有し、提案する事業が実施可能であるか。
	継続能力	【団体の継続能力】 5点 提案団体は、当該事業を実施する上での、提案する事業が継続可能であるか。

5 事業提案の審査等に関する今後の検討課題

事業目的

この制度は、多様化する地域の課題や区民ニーズに、区が単独で対応することが困難になってきているなか、特定非営利活動法人またはボランティア活動団体及び市民活動団体等の社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体(以下「NPO」という。)の専門性や柔軟性等を活かした事業の提案を募集し、NPOと区が協働することで、地域課題の効果的・効率的な解決を図るとともに、区行政への住民参加の促進を図り、暮らしやすい地域社会を実現することを目的とします。

なお、この制度は選定された事業を区の事業としてNPOと区が協働して実施するものです。

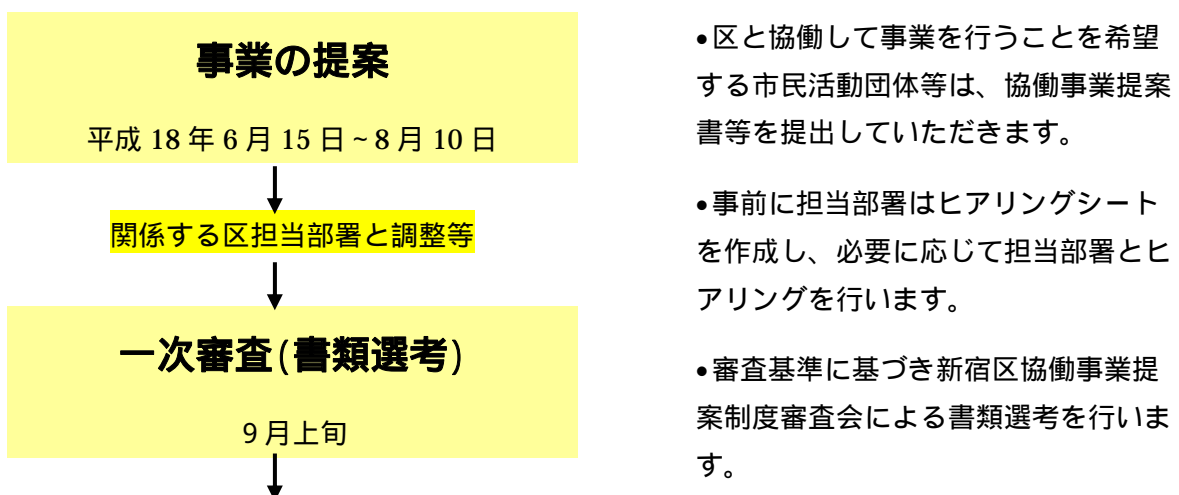
課題・問題点等

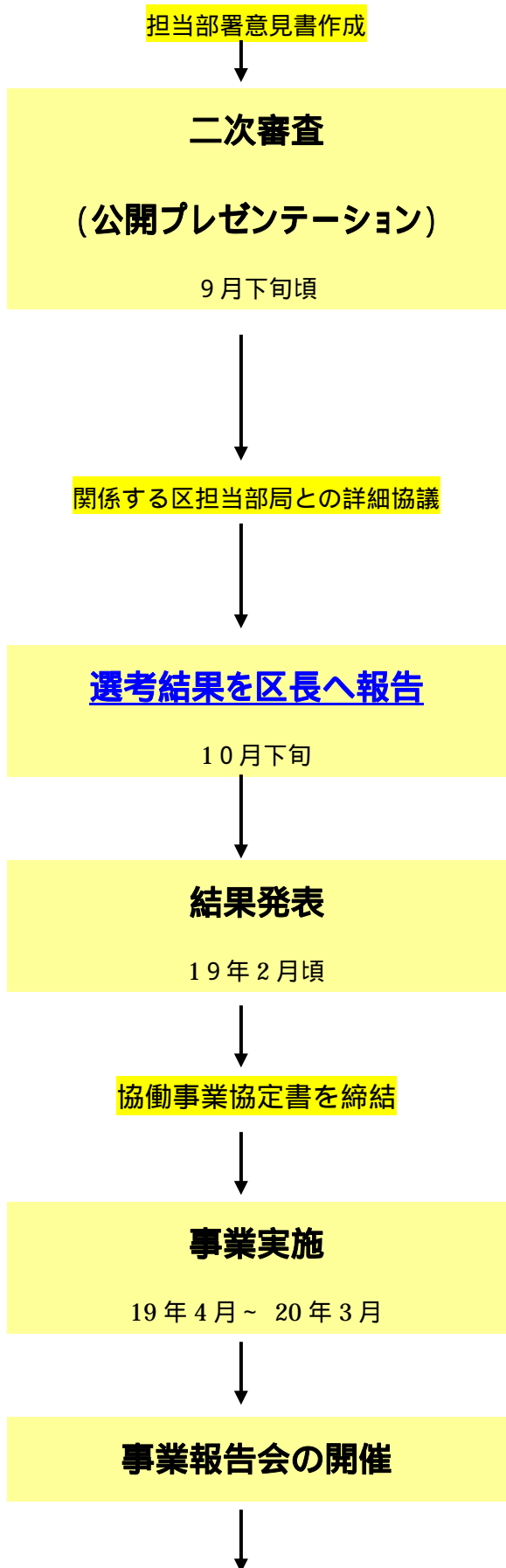
- ・提案事業の内容を見ると「助成金」という趣旨で提案されてきたものが見受けられる。単なる助成ではなく「協働事業」として区の事業として実施する意義を更に周知する必要がある。

解決策

- ・説明会の内容及び周知の機会の拡充を図る。
- ・事業課を含めた事前の懇談会を開催する。

事業の流れ





- 一次審査を通過した事業につき担当部署にてプレゼンテーション実施団体とヒアリングを実施しながら意見書を作成します。

- 一次審査により選考された提案団体の方に事業案の、公開プレゼンテーション（9月下旬を予定）を実施していただきます。審査会は、審査基準に基づき審査を行い、対象事業を選考します。（二次選考）

- 公開プレゼンテーションによる審査会を通過した提案者は関係する区担当部署と事業化に向け、詳細協議を行っていただきます。

- 公開プレゼンテーションや関係する各区局担当部署との調整を踏まえ、審査会が総合的に評価し、選考します。選考結果については、区長に報告するとともに、公開プレゼンテーション参加団体の方にお知らせします。

- 最終選考により採択された事業は担当部署との協議を経て事業実施内容を確定した後、区広報・ホームページにより広く区民等に公開します。

- 最終的に選考された団体の方については、関係する担当部署と役割分担等について協議し、協働事業協定・契約の締結をしていただきます。

- 事業実施中の進捗状況、事業視察などを行い、必要に応じて相談、アドバイスなどを行います。

- 事業終了後には、事業報告会の実施などにより、区民等への周知や事業実施の手法・効果を含め、担当部署との事

事業の評価・検証

業の検証を事業評価制度により行います。

課題・問題点等

- ・ 第1次審査終了後に行われた担当課との協議により変更になった内容が、第2次審査(公開プレゼンテーション)会場にて知るところとなると、審査員に戸惑いが生じる。各委員は公開プレゼンテーションに向けて、書類を読み込み、それぞれ質問を考えている。審査の流れと協議の流れを同時進行することは仕方がないが、連絡体制をしっかりと確立することが望ましい。
- ・ スケジュールが過密のため、十分な審査時間がとれなかった。
- ・ 応募の段階で担当課と話し合い、第一次審査通過後のヒアリングを、数回にわたり担当課と行い、第二次審査は担当課と共同で提案するというような流れにしないと、踏み込んだ協働事業にはならない。
- ・ 最終選考により採択されてから担当事業課が予算要求するまでの期間が短く、現行のスケジュールだと提案団体が単独で実施する事業に対して区がその財源を拠出する形の事業になってしまい、区の役割分担が明確にならない。

解決策

- ・ 第一次審査終了後に行われた担当課との協議により変更になった場合、その変更内容を審査会にフィードバックする仕組みを確立する。
- ・ 第一次審査と第二次審査の間の期間を現行の1ヶ月から2ヶ月程度に伸長し、その間の事業提案担当課とのヒアリング機会を増やす。
- ・ 事業提案担当課は第二次審査(公開プレゼンテーション)の際に、提案団体のオブザーバー的な役割を担う。
- ・ 最終選考により採択される時期を早め、予算要求までの期間を設け、担当事業課との協議期間を確保する。

提案できる方(応募資格)

ボランティア活動団体及び市民活動団体等、営利を目的としない団体(NPO)で、次の要件のすべてを満たす団体とします。複数の団体の共同提案も可とします。

なお、個人は対象としません。

1. 組織の運営に関する規則(規約、会則等)があり、会員名簿を備えていること
2. 予算・決算を適正に行っていること
3. 団体の責任者及び事業の連絡責任者が特定できること
4. 事業の成果報告及び会計報告ができること
5. 宗教活動や政治活動を目的とした団体でないこと
6. 特定の公職(公職選挙法(昭和25年法律第100号)第3条に規定する公職をいう。)にある者、若しくはその候補者、又は政党を推薦し、支持し、又はこれらに反対することを目的とした団体でないこと
7. 暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団をいう。)又は、暴力団若しくは暴力団員の統制下にある団体でないこと
8. 協働事業の業務を遂行できる能力又は実績を有すること

課題・問題点等

- ・ 審査会委員が役員もしくは事務局を務める団体は、事業提案の申請を行わないこととすることが求められる。

解決策

- ・ 審査会委員と利害関係がある団体の応募制限を要綱上、明文化する。

対象となる協働事業

対象となる協働事業は、次に掲げる事項を満たすもので「NPOの自由な発想による事業」、又は「区からの課題に提起する事業」のいずれかに該当する事業とします。

1. 公益的・社会貢献的な事業で地域課題や社会的課題の解決を図るために、区と協働で取り組むものであること
2. 区民満足度が高まり、具体的な効果・成果が期待できるものであること
3. 協働の役割分担が明確かつ妥当で、相乗効果が高まるものであること
4. 協働事業を提案するNPOが実施することが可能であること
5. 地域課題や社会的課題の解決に向けた新たな視点を取り込まれていること
6. 予算の見積もり等が適正であること

(対象外とするもの)

- 特定の個人や団体のみが利益を受ける事業
- 学術的な研究を目的とした事業
- 地区住民の交流行事等の親睦会的なイベントなどの事業
- 営利を目的としたもの
- 宗教活動または政治活動を目的とした事業
- 国、地方公共団体及びそれらの外郭団体から当該事業に助成を受けている事業
- 事業実施の伴わない調査を目的とした事業

(当該年度に調査と、それに基づく事業を実施するものであれば対象となります。)

課題・問題点等

- 区はその時々重点課題を対象としたテーマ別の募集をすることも検討してはどうか。市民団体の育成に繋がるものと思う。

解決策

- 区からの課題については、区の重点施策を踏まえた課題の設定を行なう。

事業期間及び区の経費負担

- 事業期間は、翌年度の単年度です(当該会計年度(4月1日～翌年3月31日)とします。)。この制度では次年度以降に継続実施はできません。(ただし、予算編成時期に事業の規模が確定しないなどの理由で翌年度予算計上できないときは、翌々年度の単年度事業として事業を実施することができます。)
- 区が負担する事業経費は、1事業あたり500万円を限度とします。なお、「協働」で事業を実施していくものであるため、提案団体への経費負担のほか、役割分担により、区に事務費等の経費支出が生ずる場合は、その経費を含めたものとします。この金額はあくまでも事業経費負担の上限額ですので、これ以下のものも対象となります。(ただし、概ね100万円を下限額とします。)
- 実施する事業に対して負担するものですので、提案事業とは関わりのない団体の人件費及び事務所の賃借料、光熱水費等管理費は対象外とします。(事業に直接係る人件費などは対象となります。)
- 区が事業経費を負担した場合において、事業実施後に余剰金が発生した場合は、区へ返還していただきます。

課題・問題点等

- 区が示すこの事業は「単年度事業」というのは、事業費の支出が単年度なのであって、事業そのものは引き続き継続されるべきものであり、当該事業に対する実施団体のその後の計画を提示して欲しい。

解決策

- 現行の事業提案企画書の中に、「事業の展望及び今後の活動展開」について記載を求めているところだが、提案事業の事業実施年度以降の中・長期的なスケジュールとそのビジョンについて記載を求めるような申請様式に変更する。

審査・選考及び公開プレゼンテーション

- 提案された事業は、第一次審査(書類審査)、第二次審査(公開プレゼンテーション)を経て事業実施の決定をします。提案された事業は必要に応じて区の担当部署とヒアリングを実施し、最終選考された事業は、提案したNPOと区の担当部署と詳細な協議を行い、具体的な事業の企画を練り上げていきます。
- 審査・選考は、学識者、NPO、事業者、公募区民などからなる「新宿区協働支援会議委員」と区の職員から構成される**新宿区協働事業提案審査会**が行います。
- 第一次審査により選考された提案については、公開プレゼンテーションを行いますが、提案された団体の方がご参加いただけない場合は、審査の対象外となります。
- 提案された事業の審査・選考は、以下に記載する審査基準により審査を行い、区の予算成立を条件として協働事業を決定します。

課題・問題点等

- プレゼンテーションは一団体の時間をもう少し長くし、もっと協働事業の考え方などについて意見交換ができたほうが、市民団体の今後の活動にも役立つものと思う。

解決策

- 次年度以降、プレゼンテーションの実施時間については見直しを図り、審査にあたり十分な評価ができるよう1団体あたりの時間を確保する。

審査基準

課題・問題点等

- ・ニーズ把握については、団体がどのくらい具体的に把握しているのかを示させること、区が認識するニーズとのずれをどのように判断するのか、点数に反映するのか、委員会として議論が必要だと思う。
- ・採点の評価について、点数の多い順に幾つかの団体を決めるやり方ではなく、最低基準をあらかじめ決めておくことが必要である。
- ・地域課題・社会的課題 ニーズ についての採点は事業提案についてなのか、事業内容についてなのか考えるところである。内容については地域課題・社会的課題以下で評価される。その点からいけば、個々の提案、課題によって既に配点が決まっているのではないか。
- ・審査委員会は合議制としたらどうか。また、各委員の意見をお聞きすることで講評も書きやすくなると思われる。

解決策

- ・採点基準及び事業の選定方法については、今後審査会において更に協議し、よりよい事業の選定に繋がるよう見直しを図る。

その他委員の個別意見

- ・100万円を下限額としているが、小規模の金額での協働提案も受け入れることができるように、下限は設けない方がよいのでは。
- ・選考で漏れてしまったが、アイデアや課題解決の手法として、良いと担当課が感じたものは、来年度以降どうしたら事業化につながるか？など、道を残して、新宿区にとって様々な協働の芽が育つ土壌にしてほしい。
- ・審査する側も、「事業としては落としたが着眼点はよかった」、「企画力は充分だったが協働事業としていまひとつ足りなかった」など、講評を何らかのフィードバックができると良いと思う。
- ・担当事業課が記載する意見書の実施の是非についての所管課の判断は数値化が必要。

6 18年度協働事業提案採択事業

平成18年度協働提案採択事業は以下の5事業である。

18年度協働事業提案選定事業				
申請順	団体名	事業名	事業種別	採択の条件
1	東京YMCA “liby (リビー)”	中学卒業後からの青年支援対策	自由テーマ	
2	みんなのおうち	子どもの健全育成を目指す外国籍家族と地域家族の共生作り	自由テーマ	自然体験プログラムツアーについては事業課と協議の上、規模及び内容を見直すこと
3	ゆったりーの	受身から問題発見・解決型の子育て支援者になるための講座	自由テーマ	
4	漱石山房を考える会	夏目漱石生誕140周年記念事業	区課題 (文化歴史)	
5	テラ・ガーデン新宿・共住懇・ゆうゆう	元気ができるシニアサロン	区課題 (高齢者)	

7 採択事業の選定理由

平成18年度協働事業提案選定理由			
	法人名	助成申請事業名	選定理由
1	東京YMCA “liby(リビ-)”	中学卒業後からの 青年支援対策	提案事業は、一般に「ニート」などと呼ばれている中学卒業後の青少年の支援対策事業である。中学卒業後および高校中退後に、教育機関、福祉、医療機関のそれぞれにおいて、相談や接点が中断された中、その十分な対策がとられていない分野への取り組みとして、青少年の受け皿を提供する事業という点で期待できます。居場所を提供すると共に、その活動を評価する評価会や運営委員会も設けていたり、医師、カウンセラー、教育関係者を巻き込んだ具体的な対応策が講じられているなど、さまざまな困難を抱える青少年への質の確保も検討がなされています。また当事業は、制度の狭間におかれたニートの支援であり、区との協働によって、より効果的に事業が展開されることが期待できます。以上のことから提案事業として採択しました。
2	みんなのおうち	子どもの健全育成 を目指す外国籍家族 と地域家族の共 生作り	当該提案事業は学習支援事業と自然体験プログラムツアーの二つで構成されていますが、児童館における学習支援事業については新宿区の抱える外国籍の児童の日本語能力の向上及び学力増進に寄与するとの見解で事業の必要性はほぼ全委員の理解をみえています。しかし事業規模によっては、新宿虹の会が現在持っている人員では不足することも考えられ、学習指導者の確保の問題やそれによって引き起こされるであろう質の問題が発生することも予想されます。そのためリスク回避の策を前もって考えておくことが必要だと判断されます。また、学習指導を現在は児童館で行っておりますが、曜日や参加人員によっては新たな場所の選定をも考慮していくことになるかも知れません。 自然体験プログラムツアーについては、学習支援事業との関連性が希薄なことや外国籍の方々と日本人とのコミュニケーションが図られるとの点は認めはするものの、その実施方法にはかなりの疑問を持っております。当該団体は本年度も昨年に引き続き新宿区のNPO助成事業として「子育て支援コア仲間の愉快的週末企画準備ツアー」として助成措置を受けており、今回の提案事業との違いがどこにあるのかも問題となるところです。また体験ツアーをわざわざ新潟県で行う必然性や宿泊先、参加者の費用負担も問題となっております。 以上のことから総合して考えると、学習支援事業の必要性と実効性に重点をおくことで提案事業として条件付採択しました。
3	ゆったりーの	受身から問題発 見・解決型の子育 て支援者になるた めの講座	今日的課題である子育て支援は、様々な取り組みが各地で行われてます。今回の提案が、市民を主体とした支援者の育成という企画が評価されたこと、二つ目には、子育て支援という市民にとってもわかりやすいテーマであったこと、そして、今回の提案制度の大きな目的である、「協働」の成果が実感できる事業であること、などが評価されたものです。これからの課題としては、講座修了者がどのような団体でどのような支援活動をするのか、あるいは個人としてどのような支援活動に取組むのか、事業団体としての「ゆったりーの」の責任を果たしていくことが求められます。以上のことを総合的に評価し提案事業として採択しました。
4	漱石山房を考 える会	夏目漱石生誕140 周年記念事業	区からの課題(地域の文化・歴史の発掘)に対する事業提案で、明治の文豪夏目漱石の生誕140周年記念事業です。事業内容は、漱石を語る出前事業 漱石特別ギャラリーの開設・運営 漱石首都電の旅の企画・実施 坊ちゃん列車(SL)の運行イベント 漱石文庫の展示である。日本近代文学に多大な貢献をした漱石の功績等を、生誕の地である新宿区から全国に発信すると同時に、次世代への継承などの大切さを訴える取組みであり、区民が地域文化への愛着や理解を深めることに大きな期待ができます。以上のことから提案事業として採択しました。 なお、単年度のイベントのみに終わらせることなく、文化事業を継続することの重要性から、提案団体の今後の取り組みにも期待し、更なる努力をお願いするものです。
5	テラ・ガーデン 新宿・共住懇・ ゆうゆう	元気ができるシニア サロン	区からの課題(高齢者の能力発揮の場と生きがいづくり)に対する事業提案で、高齢者の居場所づくりと高齢者の雇用の創出の二面的な効果が生み出される「サロン作り事業」と在宅高齢者の利便性と見守りの役割を果たすために高齢者への弁当と日用品の宅配を行なう「宅配サービス事業」の二つを柱とした提案事業です。単に高齢者の能力発揮の場と生きがいづくりに止まらず、地域課題を効果的・効率的に解決するものとして大きな期待できるものです。サロン事業は提案団体の専門的分野であり実績もあり、また、宅配サービス事業は新たな試みであるが、在宅高齢者をサロンへの誘い出しに結びつき、高齢者の生きがいづくりにつながることが期待できます。以上のことから優れた提案事業と判断し採択しました。

8 18年度採択事業

(1) 事業種別：自由テーマ

事業担当課 福祉部子ども家庭課

事業提案企画書

新宿区負担額 5,000 千円 (事業の予算総額 5,514 千円)

提案団体名	東京YMCA“liby(リビー)”
提案事業の名称	中学卒業後からの青年支援対策
提案事業の目的	<p>一般に「ニート」と呼ばれている人達のように、生き方を模索し、将来に不安をいただいている青年たちは多い。そのような彼らに対して、その分野で活動しているliby(リビー)が区と協働で窓口を開き、彼らの受け皿を作ることで、彼らがいろいろな大人・青年と出会い、自分の生きる方向性を考え、一人ひとりの満足のいく生き方で歩み始めていくであろうと予想される。こうした中学卒業後の青年支援をその目的とする。</p>
<p>地域課題・社会的課題の緊急性・重要性 (区民ニーズを含む)</p>	<p>1. 解決する地域課題</p> <p>* 教育相談の中断 中学までの教育相談、及び適応指導教室は、区で行われている。ところが高校段階になると、適応指導教室的なものはなくなり、教育相談は都に引き継がれるがなかなか継続がうまくいっていない。</p> <p>* 高校中退以降の対策がなされていない 中学卒業までは、担任や教育相談などで、区の機関と家族の接点もたれるが、高校以降に学校を離れる、あるいは、仕事を離れてしまうと、社会や地域との関係が途切れ、孤立した状況に陥りやすくなる。</p> <p>* 厚労省の「ニート」対策の課題 厚労省の若者自立塾では3ヶ月の寮生活を経て自立するとうたわれているが、その想定自体のハードルが高く、当初想定された実績に結びついていない。また今年度農水省も過疎化対策とあわせて事業化したのが、低調な利用率である。こうした状況を考えると、もう少し別の手立てを必要としているように思われる。</p> <p>* 児童精神科、心療内科退院後の青年たちの行き場所の問題 通常は精神のデイサービスへと導かれることが多いが、そこは青年層がごく少数であることも多い。そのため、サービスとしてはあっても、こうした人たちにはその効果が限定される可能性がある。</p> <p>2. 区民ニーズ</p> <p>* 誰にとっても住みやすい新宿を実現していくために 人のつながりが切れてしまい、その結果として少し変わった人や、妙な行動をする人を全て治安対策として取締りの対象となってしまうがちである。私たちはこの事業を通じて、少なくとも青年たちとはつながりを持っていくことで、彼らが地域や社会とつながっていくお手伝いができればと考える。</p>

	<p>*通勤・通学者、他の利用者へのサービスとして 本来は区の事業としては住民のみを対象とすべきであろうが、街の特性から通勤、通学者、他の利用者が多く、昼間人口は夜間人口の何倍にも膨れ上がる。こうした人たちやその家族も、このサービス対象者として、想定せざるを得ないであろう。</p> <p>3.その他</p> <p>*現代日本の課題 今、日本全体で取り組むべきと考えられている課題がこうした青年たちへの支援と考えられる。</p>
<p>問題解決の手法・ 形態</p>	<p>1.課題解決の方策</p> <p>*教育相談の継続 中学3年時から、適応指導教室、教育相談においてliby関係者が接点を持ち、これまで区の関係者が培ってきた関係を継続できるように努める。</p> <p>*高校中退以降の対策 区内の各高校、専門学校、予備校、大学の相談室等と連携をとり、退学時以降サポートを必要とする子どもを紹介して頂き、その一人ひとりについてサポートプランを作成していく。具体的には、必要に応じて居場所の提供、話し相手の発掘、学習の進め方、高校単位のとり方、進学の方法などの相談に応じるなどが考えられる。</p> <p>*新しい「ニート」への対応策 仕事もしない、学校にも行かない青年たちに居場所を提供し、彼ら自身が自分を取り戻して行く時間的猶予を確保する。そして何か出口を求めたときには、そのお手伝いをしていくことがまず求められているのであろう。</p> <p>*児童精神科、心療内科退院後の若者たちの行き場所の提供 現状も医療機関を退院してlibyに来る青年たちは多く、またlibyを経て社会復帰していくケースも実績として生まれている。区内のこうした診療期間と連携して、彼らに居場所を提供する、あるいは様々な居場所となりうる場の情報を提供していくことで、社会復帰につながっていくものと思われる。</p> <p>2.問題解決の先駆性・先進性・アイデア・工夫</p> <p>*上記の課題、対策はいずれも、各所で言及・模索されているがなかなか実現をみていない先駆性のある試みと思われる。また実施するliby自体に医師やカウンセラーなど種々の専門家が参加していることで、多様な子どもたちに、多角的に対応できるものと思われる。</p> <p>*通常は「ニート」だけを対象とするが、ここでは、中学卒業からそうした世代までを範疇に入れ、総合的な対策として考えているところが、ユニークで独創的、かつ有効性も高いと思われる。</p> <p>3.その他 この課題に対する一定の成果が得られれば、新宿区から全国に波及させることができるひとつの事業となりうる。</p>

<p>区の役割・責任分担</p>	<p>1. 提案団体が果たそうとする役割</p> <p>* ひとりひとりの交通整理・情報提供</p> <p>区内の各機関から紹介される青年たちや保護者の一人ひとりの考え方を交通整理し、必要と思われる情報を必要に応じて与えていく。多様な課題は限られた職員だけで対応するのは難しいが、多様な立場の運営委員から様々な情報・ノウハウを得、また、直接的に運営委員が相談に参加するなど、liby全体の広いネットワークを活かしてこれを行う。</p> <p>* 「居場所」の提供</p> <p>こうした青年たちが、ほっとできる「居場所」を提供する。時間的な猶予をよい方向に活かすには、人間性豊かな「環境」が必要である。ここでいう「環境」とは、「人」を伴う「場」で、どんな人でも参加できることがもっとも重要と思われる。</p> <p>* 出口の様々な可能性</p> <p>YMCAは日本において126年に及ぶ活動を行ってきた。ここで生み出された人のネットワークは様々な形で協力を仰ぐことができる。本人の希望する出口に関連した関係者を紹介し、彼らがlibyを旅立っていくお手伝いが期待できる。</p> <p>2. 新宿区に期待する役割</p> <p>* 公的サービスとlibyとの出会いの場の提供</p> <p>本分野では、プライバシーの確保と開かれたネットワーク形成が大変重要となる。そのため、現在の法制度上、どのようなことが実現可能か、各機関とその連携の具体的な方法について確認をしたり、場合によっては契約を結んで行う必要があると思われる。そうした仲介役を期待する。</p> <p>* 経済的なサポート</p> <p>最近の傾向として、こうした青年の家庭が経済的な弱者であることが多い。経済的な自立に向けて様々な区からの情報提供を期待している。</p> <p>3. 新宿区の担当の担当部署と何らかのかかわりがある場合は、その部署名、経緯及び内容</p> <p>* これまで次のような形でご協力頂きました。それぞれその延長線上での関わりを期待しています。</p> <p>[子ども家庭課] 区の「ニート」対策のひとつとして 02 - 03年度 北山伏子育て支援協働モデル事業 ワークショップの実施 03年度 あかね児童遊園改修ワークショップの実施 06年度 「ニート」対策、 [教育委員会 指導室] 定期的な懇談 05年度 教育指導主事との懇談会 [新宿区教育相談所] 中学3年生のご紹介 98年度 意見交換会</p>
------------------	--

<p>協働の必要性 (協働事業の効果・利点を含む)</p>	<p>1. 協働の必要性</p> <p>* 制度の狭間 今回の提案は、制度の狭間をとらえている。逆な言い方をすると法整備されていない部分、あるいは、法律はあっても、十分対応しきれていない部分へのサービスとして機能すると思われる。そのため、区独自では対応できず、第三機関との協働が必要と思われる。</p> <p>* 子どもを中心に、施策の活用を考える 今後都の相談業務は、子どもという括りで、教育相談、児童相談所等が1つの機関になると聞いている。ある意味でそれを先取りした役割をlibyが果たすこととなると思われる。しかも公的機関とは異なった多様な触媒として作用できる分野も広く、都における融合よりもデリケートで日常的な場面でうまく作用する可能性もあると思われる。</p> <p>2. 協働することによる相乗効果</p> <p>* これまでの行政単位でいうとこれだけで何本かの政策となるところを1つに集約し、合理的かつ的確な政策を行うことができると思われる。また前述したとおり法的な狭間についており、現在の政策を補完するものとして機能していくはずである。</p> <p>* 私たちにとっては区と協働することで区の様々な機関と協働して青年たちへの対応ができ、これまで培ってきたノウハウをより有効に区民のために活用することができ、社会的な評価を高めることにつながっていく。NPO的な団体としては、こうしたイメージは大変大切なことと考えている。</p>
<p>個別事業の内容 (目標・成果・実施期間・従事者・参加予定者・実施場所・予算額などを取り組む事業ごとに記載)</p>	<p>1. <u>中卒以降の青年の受け皿づくり</u></p> <p>目標：中学卒業後から「ニート」世代の青年たちへの具体的な支援を提供する。 成果：自分自身が自分自身の満足のいく生き方で歩き出し、社会や地域に正当に評価される方向で関わっていくこと。 内容：青年たちとの面談、(場合によって)訪問、情報提供、「居場所」の提供、活動評価会の開催(「居場所」での状況・面談内容を、専門家を交えた形で整理・検討) 実施期間：当面 07年4月～08年3月 従事者：liby専任スタッフ、非常勤スタッフ など 協力者：運営委員15名 参加予定者：30名 実施場所：liby 予算額 390.5万円</p> <p>2. <u>講演会の実施</u></p> <p>目標：社会や地域と接点を持たなくなった子どもたちやその保護者向けに講座を行う。 成果：自立や成果などの社会的な価値観から開放され、ひとりひとりのペースやあり方を取り戻す。 内容：年間親向けと青年向けのテーマで各5回の講座を行う。</p>

	<p>実施期間：当面 07年4月～08年3月 従事者：libyスタッフ、運営委員 協力者：運営委員15名 参加予定者：各 20～100名 実施場所：区民センター、東京YMCA山手センター 他 予算額 64.8万円</p> <p>3. 運営委員会の開催</p> <p>目標：実施計画を具体化案策定並びに各事業への協力を頂き、よりよい成果を出すこと</p> <p>成果：この事業によりもたらされたものは、この運営委員会の成果</p> <p>内容：計画具体化案の検討、各事業への協力</p> <p>実施期間：当面 07年4月～08年3月 従事者：liby専任スタッフ、非常勤スタッフ、運営委員15名 参加予定者：17名 実施場所：東京YMCA山手センター 予算額 79.5万円</p> <p>4. 情報発信</p> <p>目標：成果をより多くの人たちに共有して頂くこと</p> <p>成果：年4回</p> <p>内容：広報誌の発行、HPを通じての情報発信</p> <p>実施期間：当面 07年4月～08年3月 従事者：libyスタッフ 予算額 25.6万円</p>
<p>事業の実施体制</p>	<p>総括責任者 ディレクター秋田 正人 (面談、訪問、講座、運営協議会)</p> <p>個別事業責任者 小倉 哲 (面談、機関紙)</p> <p>運営委員会との協働実施</p> <p>計画を実施するため、運営委員会を設置し、講演会の企画、並びに居場所への参加者の対応の仕方など、様々なアドバイスをいただくと同時に、この事業全体への協力をお願いします。構成は、児童精神科医、カウンセラー、スクールソーシャルワーカー、大学講師、教師など、15名程度を予定している。</p> <p>*活動評価会の実施</p> <p>運営委員数名に協力を依頼し、「居場所」に参加したり、面談に訪れたりする青年たちへのスタッフとしての対応等について、整理、評価する機会を持つ。</p>

事業スケジュール		第一四半期	第二四半期	第三四半期	第四四半期
		4～6月	7～9月	10月～12月	1月～3月
	青年の居場所の提供				
	居場所	準備	実施	本格的実施	本格的実施
	活動評価会	1回	1回	1回	1回
	リーフレットの作成	作成・頒布			
	講演会の実施	準備	実施	準備	実施
	運営協議会の開催	隔月で実施			
	広報誌の発行	発行	発行	発行	発行
地域や他団体との連携	<p>* 05年度・06年度は、文科省から「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業」の委託を受けた。ここで研究されたテーマのひとつが、「将来の社会的な自立を目指した進路指導及び中卒後の支援のあり方」。これを今回のこの事業に生かした実践を行おうと考えている。</p> <p>* 内閣府から青少年育成国民会議に委託をされた「青少年の社会的自立支援モデルプログラムの開発事業」の企画委員、並びに、子どもの受入を行った。今回の事業は、この延長線上ともいえる。(報告書あり)</p> <p>* 区内の子どもに関わる民間団体に呼びかけ、「新宿子どもネットワーク」を結成(99年)</p> <p>* 区民会議、地区協議会や、社会福祉協議会の委員会・事業などを通じて、区内の様々な団体、個人とつながりの中で仕事をしてきた。</p> <p>* 新宿区福祉部管理課が06年3月に発行した「地域福祉推進ハンドブック」に、地域福祉活動の実践事例としてlibyが掲載。</p>				
事業の展望及び今後の活動展開	<p>* 地方から国に</p> <p>これまでの政策の多くは、国から地方に下ろされるというパターンが多い。この事業の場合は、うまくいけば、これを基にして、国へと逆提案できる事業となりうる。それにより、新宿のみならず他の地域へもこうした活動が波及していくことが考えられる。</p> <p>* これまでの実績</p> <p>これまで培ってきたノウハウとその実績に基づいた提案であるので、ここでの考え方はある程度の合理性と課題への的確な対応策と考えられると思われる。</p>				

(2) 事業種別： 自由テーマ 事業担当課 地域文化部文化国際課

事業提案企画書

新宿区負担額 4,998 千円 (事業の予算総額 4,998 千円)

提案団体名	NPO 法人 みんなのおうち
提案事業の名称	子どもの健全育成を目指す外国籍家庭と地域家庭の共生作り
提案事業の目的	<p>提案事業を実施する目的は4点あります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然体験プログラムツアーでは魚沼市の里山にあるログハウスに宿泊し、四季の自然に助けられた愉快的遊び体験を共有する事で、様々な問題を抱える家庭（外国籍家庭、養育家庭、シングル家庭など）を巻き込んで地域家族間の交流を成熟させ、具体的支援につなげます。 2. 新宿区においては、子ども達の学力向上は大きな解決課題です。外国籍子ども達が日本語を習得し教科学習も獲得できれば、高校進学が達成できます。同じように日本人中学生（ネグレクトに近い状況）も教科学習を獲得する事で自分の将来に希望を持つように支援します。 3. 上記目的を達成するための人材養成をします。外国籍家庭の中でのまとめ役になれる人材養成、日本語指導をする人材養成、教科指導をする人材養成することで1、と2は達成できます。 4. 事業を達成するには、子ども達の地域の居場所になっている児童館を利用し学習の拠点、また地域家庭交流の場、異文化共生の居場所にします。
地域課題・社会的課題の緊急性・重要性 (区民ニーズを含む)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解決する地域課題 <p>問題を抱えた家庭が地域で孤立化して、サポートしにくく問題解決が出来にくい。 子ども達が学習的に遅れることで、自分の将来像が明確化できない。 外国籍家庭と地域家庭の共生が進展しない。 子ども達が自然体験や親との共通体験が少ない。 地域での交流が少ない。 国際結婚家庭への精神的支援がない。</p> 2. 区民ニーズ <p>新宿区で今子育て中の親達が抱える問題は様々で、親の抱える不安も大きい。そんな中、区では次世代育成計画に基づいたプレイパーク、地区協議会、学校居場所事業、サロン、生活塾、ショートステイ協力家庭などの事業を提案され、従来の青少年育成活動から一歩踏み込んだ施策がなされています。これらの施策が家庭に実効性のある支援となるには、行政と区民が更なる関係性を持つことが重要です。その為には区民が実際に感じている問題（養育家庭、シングル家庭、外国籍家庭、不十分な日本語習得、学習支援の必要な子ども達）を具体的に解決していくことが、新宿区の安心・安全につながり、区民が安心して子育てが出来、皆が共生できる国際地域としてのモデルになる事を望みます。</p> 3. その他 <p>「NPOみんなのおうち」は牛込地域を中心に子育て中の親達が子ども達を通して知り合った縁か</p>

	<p>ら、自然遊びの共有体験活動で家族交流を成熟させ、具体的な子育て支援をしてきました。子ども達も親達も元気になっています。また、新宿区17年度助成を受け実施した「外国籍子育て家庭と地域子育て家族の愉快的週末ツアー」を体験した参加外国籍家庭からの感想では、「日本では外国人が差別され拒否されるのではないかと不安を持っていたが、この旅行で不安を打ち消す事が出来た。外国人である自分が尊重される存在である事を強く実感できた。」、「子ども達が国籍を越えて交流することが偏見をなくす事を知った。」などがあり、継続参加希望が全員から寄せられています。地域家庭の子ども達との交流は微笑ましい光景でした。大久保、薬王寺地域での挨拶や立ち話の交流が生まれました。このような試みが新宿区内に広がる事が子ども達の健全育成に繋がると確信しています。又異文化共生の街の姿だと夢を持ちます。新宿区の個性と成り得ます。</p>
<p>問題解決の手法・形態</p>	<p>1.問題解決への方策</p> <p>自然体験プログラムは「NPOみんなのおうち」が所有する新島のログハウスで実施 外国籍子どもの日本語指導は新宿虹の会会員の経験を反映する。 児童館利用に関しては区の協力和区民のネットワークで組織化する。 子育て家族の支援は区内の子育て団体とのネットワークを駆使する。</p> <p>2.問題解決の先駆性・先進性・アイディア・工夫</p> <p>問題を抱える様々な家庭には「NPOみんなのおうち」での愉快的遊びや自然体験プログラムを提案し、自己肯定感を獲得し、自己再生への支援の輪（サポーター強化）を摸索する。 外国籍と日本人中学生などの学習支援は榎町児童センターでの試みを拡充する。榎町児童センターでは特に今年の夏休みに、外国籍子どもと地元中学生の学習と食育支援をしており、子ども達が意欲を見せるような変化を経験。この試みを他の児童館（百人町児童館）に波及させる。</p>
<p>区の役割・責任分担</p>	<p>1.提案団体が果たそうとする役割</p> <p>自然体験と地域をまとめるリーダーの発掘と養成 自然体験プログラムツアーを実施 子ども達の日本語指導と教科指導の人材養成 を実施するための管理・運営システムの確立、維持 提案の管理・運営・維持</p> <p>2.新宿区に期待する役割</p> <p>子ども達の学習支援の場として、児童館（百人町児童館、榎町児童センター）の夜間利用を優先して欲しい。 人材養成のための求人広報、人材養成の場の提供</p> <p>3.新宿区の担当の担当部署と何らかのかかわりがある場合は、その部署名、経緯及び内容</p> <p>外国籍子どもの日本語指導と教科指導に関しては明らかに不十分さがあるので、虹の会では文化国際課と財団文化・国際交流財団に相談しています。親子日本語教室を平成16年度より実施しているが、財団文化・国際交流財団の支援を受けてきました。また、地元中学である牛込第二中学校と榎町児童センターの職員の協力を得て実施しています。今回虹の会有志の協力参加を得てその方の周辺人材とともに事業を展開します。</p>

	<p>「NPO みんなのおうち」は新宿区NPO助成を17年度「外国籍子育て家族と地域の子育て家族の愉快的週末ツアー」、18年度「子育て支援コア仲間の愉快的週末企画準備ツアー」と連続して受けている。「アートな夏休みツアー」ではコミュニティ助成を受けました。他2団体も同助成を受けてのツアー申込みも現在入っています。コミュニティ係と昨年から関わっています。</p>
<p>協働の必要性 (協働事業の効果・利点を含む)</p>	<p>1. 協働の必要性</p> <p>私達NPOのメンバーは新宿区で子育てをしながらボランティア活動をしています。その中で感じている問題を解決しようと努力し、色々な試みを実施していますが、区民だけでは十分な解決を見ることが出来ません。児童館の利用等、活動を広げるためには単なる一団体だけでは解決できません。また、区との協働事業にすることでより多くの区民が、私達が経験した素晴らしい経験をできる事になる、と考えています。孤立化しやすい子育てを地域全体で支援して、次世代である子ども達に希望の持てる社会を確立したいと考えます。また、アジア系の恵まれない家庭には単なる一回だけの支援ではなく、継続的に支援していく必要性を実感しています。この継続的な支援を単一なNPOだけでは担って行く事は不可能です。今回は虹の会の中での豊富な日本語教育のノウハウと長い交流から外国籍家族の抱える問題に気付きをお持ちの小林さんと連携し、事業企画しましたが、今回の事業は区と区民との協働事業にすることでより効果的な事業になり区民全体がその恩恵を受ける事になると考え提案します。</p> <p>2. 協働することによる相乗効果</p> <p>17年度に「NPOみんなのおうち」が実施したツアーには新宿虹の会が主催している「親子日本語教室」に通う外国籍家庭が数多く参加しました。外国籍家族が抱える課題は多岐に渡るものでしたが、その中でも子ども達への学力支援が最大の課題でした。言葉の壁と人種偏見の前で、萎縮した表情のA君、虚勢を張り身構えているB君ともに中学入学を前にしていました。彼等と当NPO会員との出会いから、雪かき隊への単身参加や日常の教科学力支援に会員が当たる等の交流が発展してきました。二人の表情は変わりました。そしてこの春から一歩進めて、榎町児童センターの場で中学生対象の教科学力支援、食育支援を展開しています。虹の会本来の事業ではなく、小林さんと当NPO正会員小川さんが主になり、有志ボランティアが実施しています。大学生の協力も広がっています。高校進学を放棄していた中学生達に学習意欲が見られるようになり、支援の実効性を確認しました。この活動の一般化には有志のみでは実現できません。</p> <p>区民である私達の課題への気付きと実践の実験を経て、区と協働で子ども達の健全育成を目指して事業を作り上げていく方式に挑戦していく効果は区民のあり方、行政のあり方共に新しい姿を創造することです。その立場を超えて課題解決に当たる大人たちの行為は進路に迷っている中学生達に具体的な安心感をもたらす、守られて育つ彼等の未来こそが、次世代です。</p> <p>新宿区行政において、子ども達の学力向上は早急に解決の道筋を区民に提案しなければならない緊急課題です。その課題解決にNPOの「自由な発想」「真摯な実験」「課題と効果の実感」が役立つと考えます。「NPOみんなのおうち」が実施してきた活動と「新宿虹の会」が大久保小学校で実施している「親子日本語教室」は区民の立場で新宿で育つ子ども達の未来をすこしでも明るくしたい区民の願いから実践が始まり、ノウハウも蓄積されてきました。</p> <p>また、NPOとして自由な発想での実験が可能です。区民ネットワークを駆使して実験にあたり、効果も具体的な日常生活情報から判断できます。区内で活動を展開している他のNPOとの</p>

	<p>連携も可能です。</p> <p>行政だけでは得る事が出来ない地域の細かなニーズや効果情報を区民である我々が区に伝える事で、実効性の高い施策へと反映できる事になり、そのためにも区との協働事業にすることが有意義であると考え、相乗効果をもたらす協働のありかたへの大きな実験に挑戦します。</p>
<p>個別事業の内容</p>	<p>1.自然体験プログラムツアー事業</p> <p>目標：自然に助けられた遊びや空き地遊びのプログラムを提案しながらの自炊、雑魚寝、温泉入浴等日常から離れた遊び心を共感しあう時間は、子どもや大人の間を愉しいものにしていきます。日本に住み始めて日の浅い外国籍家族には、田舎の風景、温泉そして魚沼市地元協力家庭との交流は予想以上の愉快的な体験です。新宿区に住み、子育てをしていく安心感を得る具体的な体験を提案します。子どものみの参加ではなく家族での参加です。親の子育て観の調整機能も果たし、そして子ども達を通して知り合った地域家族との交流ではサポーターの輪を生みます。</p> <p>成果：外国籍家族が抱える問題を地域家族または他の外国籍家族が理解し、地域交流の中でサポーターの輪ができます。相互の支援関係の広がりは外国籍及び地域の子供達に大きな安心を与えます。</p> <p>実施期間：自然の四季を体験する目的で春夏秋冬の4回ツアーを企画します。</p> <p>従事者：当NPOスタッフ以外に研修を受けて学習指導にあたる公募区民や学生等のボランティア 自然遊びについては、魚沼市観光課をはじめNPO 魚沼ネットワーク、NPO 魚沼伝習館、絵本の家、星の家、須原スキー場、神湯倶楽部の団体、そして有志からの協力を得ます。</p> <p>参加予定者：大型バスと乗用車3台を移動手段とし、親子60人 日本語教室に通う子どもとその家族・学習支援を受けている中学生とその家族及び地域の友人家族</p> <p>実施場所：新潟県魚沼市赤土125ログハウスみんなのおうち</p> <p>ツアースケジュール： 金曜日夜20：30新宿発（大型バス）深夜みんなのうちに着・自由な交流時間 土曜日朝親子パン教室後朝食 10：00 自然遊びプログラム、温泉入浴、ファイヤー遊び 日曜日午後帰宅 回数：四季の自然遊びを予定、春夏秋冬の4回 予算額：1,760,000円</p> <p>2.児童館を利用した子どもへの学習支援事業</p> <p>目標：子どもが学習意欲を持ち積極的に学習に向かう姿勢を確立 外国籍子どもが日本語を獲得して教科学習も出来るようになる。</p> <p>成果：どの子ども達もが、望む高校に入学でき、将来に希望を持つことが出来る。 将来、職業を持った自立した社会人になれる。</p> <p>実施期間：平成19年4月～平成20年3月 平成19年4月～6月：従事者募集と研修 平成19年7月～平成20年3月：事業実施</p> <p>従事者：公募して研修した大人</p>

	<p>参加予定：20名～30名</p> <p>実施場所：新宿区立百人町児童館、櫻町児童センター</p> <p>予算額：3,238,000円</p>															
事業の実施体制	<p>総括責任者：三島 知彦</p> <p>個別事業責任者</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然体験プログラムツアー事業責任者：三島 知彦 副責任者：吉村 剛：横山 京子（魚沼在住） ボランティア従事者：NPO みんなのおうち正会員＆準会員計20人 現地協力団体： NPO 魚沼ネットワーク NPO 魚沼伝習館 絵本の家 須原スキー場 神湯温泉 星の家 児童館を利用した子どもへの学習支援 事業責任者：小林 普子（新宿虹の会代表で親子日本語教室を実施、外国籍子育て支援ネットワーク実施委員） 副責任者：小川 麻美（教科担当、NPO みんなのおうち正会員） 梶村 勝利（早稲田奉仕援日本語教室運営、東京日本語ネットワーク代表） 専従職員：9名（教員免許所有者を公募） ボランティア従事者：5名 専従職員は公募して研修を実施する場合の研修担当 新宿区立大久保小学校日本語教室担当・善元 社団法人国際日本語普及協会理事・関口 明子 															
事業スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1四半期 4～6月</th> <th>第2四半期 7～9月</th> <th>第3四半期 10～12月</th> <th>第4四半期 1～3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自然体験プログラム ツアー</td> <td>山菜採り 春ツアー</td> <td>溪流遊び 夏ツアー</td> <td>ハロウィン 秋ツアー</td> <td>雪遊び 冬ツアー</td> </tr> <tr> <td>児童館を利用した子 どもへの学習支援</td> <td>専従職員募集と研 修、参加者募集</td> <td>学習支援実施</td> <td>学習支援実施</td> <td>学習支援と実 施内容の見直 し</td> </tr> </tbody> </table>		第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月	自然体験プログラム ツアー	山菜採り 春ツアー	溪流遊び 夏ツアー	ハロウィン 秋ツアー	雪遊び 冬ツアー	児童館を利用した子 どもへの学習支援	専従職員募集と研 修、参加者募集	学習支援実施	学習支援実施	学習支援と実 施内容の見直 し
	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12月	第4四半期 1～3月												
自然体験プログラム ツアー	山菜採り 春ツアー	溪流遊び 夏ツアー	ハロウィン 秋ツアー	雪遊び 冬ツアー												
児童館を利用した子 どもへの学習支援	専従職員募集と研 修、参加者募集	学習支援実施	学習支援実施	学習支援と実 施内容の見直 し												
地域や他団体との 連携	<p>自然体験プログラムツアーは： NPO 魚沼ネットワーク NPO 魚沼伝習館 絵本の家 須原スキー場 神湯温泉 星の家等の団体からの連携を得ます。他にも畑の無料レンタルやハロウィンを受け入れて頂く家庭等地元の方々からの協力は多くあります。地元大学（国際大学）からの協力も期待できます。</p> <p>学習支援： 東京日本語ネットワーク 大久保小学校 社団法人国際日本語普及協会</p>															
事業の展望及び今 後の活動展開	<p>自然体験プログラムツアーでは、魚沼市在住外国籍家族との交流も開発予定します。外国籍家族が広い交流の輪を持つことから、日本文化を享受しながら自信と展望をもって将来の生活を描く支援となる。外国籍家族の中からサポーター家族の成熟を図り、相談支援を深めるネットワークを作</p>															

	<p>ります。</p> <p>子ども達を繋ぐ遊びは言葉の壁を越えて笑いを生んでいます。その笑いから、硬い表情の親達に笑顔が広がります。子どもを愛して慈しむ親の姿も言葉の壁を越えます。その変化を目の前で経験する地域の家族にとっても、国際交流の真意が理解されます。17年度実施のツアー後に参加者母国タイへのツアー計画も言葉に出始めました。身近な生活から生まれる国際交流、相互交流こそ共生の姿です。</p> <p>学習支援：新宿区の子も達の学力は他地域より劣るとの情報が届きました。その遠因となっている外国籍児童や生徒の学力支援は日本語学習よりも進んだ教科学習をも支援しなくてはならないという虹の会数年の実践から気付きました。児童館で教科学習をこの春から（外国籍ツアー後）実施していますが、具体的な進歩がみられ、学習支援の必要性和効果が得られました。この事業により、指導者を育成し、より多くの外国籍及び地域中学生に無料で教科学習指導の機会を与えます。当面は2館の大型児童館で実施しますが、効果が具体的に実証されれば、児童館数を増やし、新宿区全域をカバーしていきます。指導者は教員免許所持者を資格要件としますが、広く区民からの協力を募ることで、新宿区の子も達の持つ課題への気付きが広がります。また、団塊世代の協力も今からは得られやすいものです。</p> <p>区民の自発的な意思で、区の課題解決（異文化共生事業、次世代育成事業）に参加していく方式は今後の新宿区区政を発展させるものだと考えながら当事業を提案するものです。</p>
--	---

(3) 事業種別： 自由テーマ

事業担当課 福祉部子ども家庭課

事業提案企画書

新宿区負担額 2,570 千円 (事業の予算総額 3,090 千円)

提案団体名	ゆったりーの
提案事業の名称	受身から問題発見・解決型の子育て支援者になるための講座
提案事業の目的	少子高齢化が進む背景もあり、子育て支援の活動も定着しつつある。ゆったりーのは新宿区と協働で子育て支援事業を行っているが、区が今後も協働という形で区民運営型の子育て支援を拡大していくのであれば、子育て支援者を養成し、底辺拡大を図る必要がある。同時に、これからはどのような活動が有効なのか、何が求められているのかといった「質」を問う段階になったといえる。本事業では、子育てや子育て支援に関心を持つ新宿区民が、自らの経験と関心に沿いながら、課題をみつけ、その解決に向けて自発的に子育て支援を行なうための講座を実施する。講座受講者は、今後、次世代育成支援行動計画や新宿区民会議の区民提案などに沿いながら、地域の地域で具体的な活動ができるような講座をめざす。
問題解決の手法・形態	<p>1.課題解決の方策</p> <p>一方的に講義を聞くのではなく、自分たちの体験や考えを出しながら、グループで共有していくワークショップ形式や、身近な区民ですでに先駆的な活動を行なっている人たちの話から自分の活動に落とし込んでいくような講義、実習などを組み合わせて、「自分のやりたい子育て支援は何なのか」を明確にし、高い動機付けのもとで、活動ができるようにファシリテートする。</p> <p>2.問題解決の先駆性・先進性・アイデア・工夫</p> <p>講座を、始めの一步の初級編とリーダー養成の2つにわけて、より受講者のニーズと状況に応じたものにするように工夫した。</p> <p>一般的な講義にならないよう、ワークショップや実習なども取り入れ、何回かにわけてレポートを提出してもらうような進行にする予定。</p> <p>単に子育て支援ができる人の養成ではなく、マネジメントができ、地域の担い手になれるような「市民」の養成を意識する。講座終了後の人たちが、「自分たちで何かやりたい」という気持ちになるような講義、その後のフォローができるような内容をめざす。</p>
区の役割・責任分担	<p>1.提案団体が果たそうとする役割</p> <p>養成講座の企画・運営・養成講座終了後のフォロー</p> <p>2.新宿区に期待する役割</p> <p>広報・会場提供・子育て施設の現場で働く区の職員の方の参加の案内(リーダー養成講座)</p>

	<p>3.新宿区の担当の担当部署と何らかのかかわりがある場合は、その部署名、経緯及び内容 「ゆったりーの」の現在の運営担当部署（福祉部子ども家庭課） また、新宿区民会議にも運営委員が参加し、提言書作成に関わった。（企画政策課）</p>
<p>協働の必要性 (協働事業の効果・利点を含む)</p>	<p>1.協働の必要性 子育て支援は行政だけがやる、NPO など市民だけがやるというものでは、もはやなくなっている。協働で地域の子育てをどう応援するか考えていかなければならない。ところが、市民を行なっていることを行政が知る機会実は少なく、行政の考え方や仕組みを市民は知らない。そこで、一緒にワークショップ型の講座を受けることによって、互いの事情や考え方を知り、双方の今後の活動に生かす必要がある。</p> <p>2.協働することによる相乗効果 特に NPO などの市民の活動は始まってまだ日が浅いこともあり、行政の職員もなかなか理解しづらい面がある。一緒に受講することでこれらの課題も解決するのではないか。</p>
<p>個別事業の内容</p>	<p>1. <u>子育て支援者養成講座（初級編）事業</u> (目標) 子育て支援に興味のある方を子育て支援者に養成し支援者の裾野を広げる。 (成果) 養成された支援者が、区内各所で様々な形の子育て支援を展開し、かつ、互いに連携する。 (実施期間) 事業スケジュール欄記載のように計画しているが、新宿区と協議したい。 (従事者) 講師：すでに子育て支援を実践中の方（内容によっては新宿区職員も協力いただきたい）に 依頼 ファシリテーター：新宿区民会議第一分科会学識委員・子育て環境研究所 杉山千佳氏に 依頼予定 アシスタント：ゆったりーのスタッフ等が担う。 受付等事務局：ゆったりーの 及び 関連団体 (参加予定者) 区内在住在勤の子育て支援に興味のある方 (実施場所) 「ゆったりーの」の予定（アクセスが悪い場所なので可能ならば区と協議したい。） (講座内容) 1.なぜわたしは子育て支援をやりたいのかWS</p>

	<p>2. 地域の子育ての課題 話題提供:区民会議のみなさん</p> <p>3. 日本の子育ての課題 話題提供・ファシリテーター:杉山千佳</p> <p>4. アートワークという手法を使って</p> <p>5. いま求められている子育て支援のあり方とはWS</p> <p>6. 保育園実習</p> <p>7. 子育て支援施設実習</p> <p>8. 市民活動としての子育て支援の必要性</p> <p>9. アートワーク</p> <p>10. これからわたしは何をしようとしているのだろうかWS</p> <p>2. <u>子育て支援者リーダー講習 事業</u></p> <p>(目標)</p> <p>民官を問わず、すでに区内で子育て支援を実践している人が互いに課題を共有し、連携し、課題解決の手法を話し合う。</p> <p>(成果)</p> <p>区内各所で様々な形の子育て支援を展開している者同士が、互いを理解し、連携していく。</p> <p>(実施期間)</p> <p>事業スケジュール欄記載のように計画しているが、新宿区と協議したい。</p> <p>(従事者)</p> <p>講師:各回の内容に沿った第一人者に依頼</p> <p>ファシリテーター:新宿区民会議第一分科会学識委員・子育て環境研究所 杉山千佳氏に依頼予定</p> <p>アシスタント:協働を理解しているゆったりのスタッフ等が担う。</p> <p>受付等事務局:ゆったりの 及び 関連団体</p> <p>(参加予定者)</p> <p>民官を問わず、現在区内で子育て支援を実践している方</p> <p>(実施場所)</p> <p>「ゆったりの」の予定 (アクセスが悪い場所なので可能ならば区と協議したい。)</p> <p>(講座内容)</p> <p>1. なぜわたしは子育て支援をやりたいのかWS</p> <p>2. 地域の子育ての課題 話題提供:区民会議のみなさん</p> <p>3. NPOと行政の協働を考えるWS 杉山千佳</p> <p>4. アートワーク</p> <p>5. ミクロからメゾ、マクロの視点を持つ子育て支援WS</p> <p>6. 佐伯裕子さんによる講義と実習(虐待予防とネットワークについて)</p> <p>7. 佐伯裕子さんによる講義と実習(虐待予防とネットワークについて)</p> <p>8. 英国ホームスタート(訪問方支援)のシュミレーションWS</p> <p>9. 英国ホームスタート(訪問方支援)のシュミレーションWS</p> <p>10. この講座を現場でいかに生かすか WS</p>
--	--

<p>事業の実施体制</p>	<p>事業総括責任者（ゆったりーの代表 小原聖子） 個別事業担当者 両講座企画コーディネート・ファシリテーション（子育て環境研究所 杉山千佳） ゆったりーの側の両講座企画及び補助 初級編：（ゆったりーの代表 小原聖子） リーダー編：（ゆったりーの会員・子育て支援コーディネーター 松田妙子） 講座受付・広報・報告書作成等事務局責任者： （ゆったりーの運営委員 西美智子 / ゆったりーの登録団体会員・区民会議委員 山田幸恵） 事業実施にあたっての専門性やノウハウ</p> <ul style="list-style-type: none"> * ゆったりーの自身が、区の主催するワークショップにより立ち上がった経緯があり、スタッフ・登録団体はワークショップについてはよく理解している。 * 昨年度、新宿区民会議として、ゆったりーのにて、『子育て支援のひろばづくりと NPO のマネジメントについて』という勉強会を開催した際に、ゆったりーのは事務局的角色を担った。 * ワークショップのファシリテーション、講師陣については、日頃から子育て支援団体の支援事業を行っているため、その関連で多彩な関係者とのつながりがある。 * 会場は、各種講座等で日頃から使われているので設備環境ともに問題ない。 																		
<p>事業スケジュール</p>	<p>予定（当事業提案が採用された場合は、新宿区と協議したい）</p> <table border="1" data-bbox="539 1137 1433 1525"> <thead> <tr> <th></th> <th>H19年 1～3月</th> <th>H19年 4～6月</th> <th>H19年 7～9月</th> <th>H19年 10～12月</th> <th>H20年 1～3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初級編</td> <td>講師等調整 準備期間</td> <td>4月募集開始 6月講座開始 (講座計2回)</td> <td>講座6回</td> <td>講座2回 実践期間</td> <td>報告書作成</td> </tr> <tr> <td>リーダー編</td> <td></td> <td>講師等調整</td> <td>7月募集開始 9月講座開始 (講座計3回)</td> <td>講座5回</td> <td>講座2回 報告書作成</td> </tr> </tbody> </table>		H19年 1～3月	H19年 4～6月	H19年 7～9月	H19年 10～12月	H20年 1～3月	初級編	講師等調整 準備期間	4月募集開始 6月講座開始 (講座計2回)	講座6回	講座2回 実践期間	報告書作成	リーダー編		講師等調整	7月募集開始 9月講座開始 (講座計3回)	講座5回	講座2回 報告書作成
	H19年 1～3月	H19年 4～6月	H19年 7～9月	H19年 10～12月	H20年 1～3月														
初級編	講師等調整 準備期間	4月募集開始 6月講座開始 (講座計2回)	講座6回	講座2回 実践期間	報告書作成														
リーダー編		講師等調整	7月募集開始 9月講座開始 (講座計3回)	講座5回	講座2回 報告書作成														
<p>地域や他団体との連携</p>	<p>講座に他の子育て支援団体の代表者などにパネラーとして参加してもらうほか、実習先としての協力も依頼したい。地域の人や他団体のメンバーが受講する場合は、ワークショップ等のなかで、今後の具体的な事業の連携について話し合いを進めていきたい。</p>																		

事業の展望及び今後の活動展開	養成講座を終了した人たちのなかで、引き続き子育て支援活動を続けたい人たちを対象に活動支援などを行なっていきたい。具体的には、修了生が主体的に行なう講座やイベント開催のサポート、事業企画・実施のサポートなど。またリーダー養成講座修了者とは、今後新宿区全体の子育て支援 NPO・団体を取りまとめるゆるやかなネットワークができないか呼びかけていきたい。将来的には、そうした新宿区の NPO による子育て支援セクターが区の事業の協働の担い手になればと考え。また、今回作ったテキストは、後々の人材育成に使えるような完成度の高いものにしたいと考えている。
----------------	---

- (4) 事業種別： 区からの課題 文化・歴史の発掘
事業担当課 地域文化部文化国際課

事業提案企画書

新宿区負担額 5,000 千円 (事業の予算総額 5,886 千円)

提案団体名	漱石山房を考える会
提案事業の名称	夏目漱石生誕140周年記念事業
提案事業の目的	<p>明治の文豪夏目漱石の偉業を称える啓蒙活動として、出前授業を実施、小中学生対象に正しい日本語教育と、すぐれた地域文化の次世代への継承を訴える。</p> <p>新宿区、新宿歴史博物館、東北大付属図書館と連携し、漱石文庫の一部公開展示を実施、漱石文学の今日的意義を顕彰し、それら情報を生誕地より全国に発信させ、情報拠点の基盤強化に供する。</p> <p>夏目坂の空き店舗を利用活用、漱石特設ギャラリーを開設、魅力溢れる漱石文学を語る場の提供等、地域住民との交流を図り、地域活性化へ貢献を果たす。</p> <p>また、路面電車を活用し、親子で親しむ漱石文学への旅を薦め地域文化の啓蒙・普及に努める。坊ちゃん列車の区内運行イベントを実現させ、漱石作品に登場する漱石こだわりのレトロ列車を全国にアピールし、生誕140周年記念事業を盛り上げる等を目的とする。</p>
地域課題・社会的課題の緊急性・重要性 (区民ニーズを含む)	<p>1.解決する地域課題</p> <p>青少年の読書離れ、異国文化の混在で正しい日本語が消滅危機に晒されている現状打開、すぐれた「地域の歴史と文化」の顕彰・啓蒙と次世代への継承、夏目坂周辺の歴史・文化の掘り起し活性化で、地域住民の意識の昂揚、漱石文学の情報発信を営む拠点づくり</p> <p>2.区民ニーズ</p> <p>中小学生の学校教育における国語力の強化は、成長期の脳の発達に大きく係わるとの認識が父兄の中に芽生え始めた。</p> <p>又新宿区と民間グループが協働し地域住民参加による地域文化の顕彰・啓蒙活動は大きなうねりとなり、豊かな心と、創造性に富んだ活力を人々にもたらし、それが未来に拓けた新宿区の到来となることを期待している。</p>
問題解決の手法・形態	<p>1.課題解決の方策</p> <p>区立小学校の体育館をステージに、小学校スクールコーディネーターと連携、漱石作品のアニメを放映、会員による漱石文学を紹介・顕彰する出前授業を行い、美しい日本語の習熟と国語力の向上めざす学習を实践、それを次世代へ継承させ課題解決を図る。</p> <p>新宿区、新宿歴史博物館、東北大付属図書館と協働し、双方の学芸委員を交えた準備委員会を立ち上げ歴史博会場を拠点に展示効果を高め全国に文献・資料情報を発信する。</p> <p>夏目坂の空き店舗屋主と交渉、場所の特定、特設ギャラリーに相応しい展示物を配置地域</p>

	<p>住民参加のもと、地域一体となって持続可能な地域再生への足掛かりを掴む。</p> <p>都電荒川線の路面電車を親子市民に開放、交通局との具体的交渉に基づき電車内でのイベントで漱石文学にふれあい、心豊かで充実した市民生活を実現させる。</p> <p>当会の米山工業への働きかけを契機に、新宿区と協働して「坊ちゃん列車」を区内で走行させることで児童を含む漱石ファンを集客させ、イベント効果を盛り上げる事で潤いある地域コミュニティの維持と住民意識の昂揚を図る。</p> <p>2.問題解決の先駆性・先進性・アイデア・工夫</p> <p>区内小学校と連携し総合学習の一環である居場所授業への出前授業をボランティアが行う。空き店舗利用の特設ギャラリー開設、「坊ちゃん列車」の区内走行アイデアは過去には事例が皆無である、斬新性と言う視点では効果が期待できると信じる。</p>
<p>区の役割・責任分担</p>	<p>1.提案団体が果たそうとする役割</p> <p>事業提案の企画・実施に伴う当会の役割は、メンバー各個人の強力な外部ネットワークを駆使し、テーマ実施に伴う多くの課題とその解決策を検討し、区側との協働作業立ち上げ開始前に、事前交渉及び実践のための仕組みづくり完成を目標に作業を行った。</p> <p>2.新宿区に期待する役割</p> <p>事業提案の実践に当たり各種施設の確保と利用、法令の許認可の迅速処理、広く地域社会への宣伝・広報活動、学芸員など専門性の高い人的資源の提供、安全性の確保等</p> <p>3.新宿区の担当の担当部署と何らかのかかわりがある場合は、その部署名、経緯及び内容</p> <p>環境土木部道とみどりの課、 地域文化部文化国際課、 教育委員会事務局中央図書館 新宿区立新宿歴史博物館</p>
<p>協働の必要性 (協働事業の効果・利点を含む)</p>	<p>1.協働の必要性</p> <p>価値観の多様化に伴い、地域社会が抱える諸々の課題が山積し、行政のみでの解決は困難を極める。課題の速やかな解決を望む地域住民の要望に応えるため、官民夫々が自らの強みを発揮し、相互に補完し合い官民一体となって初めて課題解決に至る。</p> <p>2.協働することによる相乗効果</p> <p>自治体と民間団体との協働による事業推進は、従来からの官主導型の事業に比べ、民意を考慮した地域住民参加型の事業に置き換えられ、地域住民の意識昂揚につながり、心豊かで潤いのある地域社会の実現に近づく相乗効果を伴う。</p>

<p>個別事業の内容 (目標・成果・実施期間・従事者・参加予定者・実施場所・予算額などを取り組む事業ごとに記載)</p>	<p>1. 漱石を語る出前事業</p> <p>目標：総合学習の一環として、区内小学校では毎月一回(土曜日午前)「居場所授業」という講座を設けている。小学校のスクールコーディネーターと連携して夏目漱石の文学作品をアニメ映画で紹介し、併せてボランティアによる漱石に関する出前学習授業を行うことで、正しい日本語の大切さを伝え、国語力の向上に貢献させる活動を行う。</p> <p>内容：具体的には土曜日に区内小学校 30 校を巡回し、中央図書館が所有する漱石アニメ作品を小学校の体育館で上映する。</p> <p>実施日程：平成 19 年 4 月から平成 20 年 3 月までの土曜日</p> <p>予算額：550,000円</p>
	<p>2. 「漱石特設ギャラリー」の開設・運営</p> <p>目標：新宿区民に、漱石が地元非常に関係の深い偉大な文学者であることを再認識させ、また、全国の漱石愛好家に、ゆかりの土地でのデスマスク、遺品等の展示を通じて漱石を顕彰する気運をさらに高める。あわせて漱石の縁で松山市と熊本市との提携関係を深める。</p> <p>成果：新宿区民、全国の漱石愛好家など多数の人が、生誕 140 周年を期して、ゆかりの地を訪れることにより、新宿区のイメージアップと漱石山房(記念館)復元の機運の醸成が期待できる。</p> <p>内容：夏目坂の空き店舗を借用して特設の漱石ギャラリーを開設し、漱石の遺品、デスマスク、経歴、業績等の展示、松山市、熊本市と提携した漱石グッズ、特産品の委託販売、生誕 140 周年記念事業への参加受付等を行う。</p> <p>実施日程：平成 19 年 12 月から平成 20 年 2 月までの 3 ヶ月間</p> <p>参加予定者：区民、愛好家など 1 日平均 50 名通算で約 3,000 名</p> <p>実施場所：夏目坂の空き店舗</p> <p>予算額：2,600,000円</p>
	<p>3. 「漱石号都電の旅」の企画・実践</p> <p>目標：漱石文学の理解、啓蒙活動や漱石に縁のある土地への訪問等を通じて、薄れがちな親子の絆の再構築を図るとともに小中学生を含めた地域住民に漱石の偉大さを再認識させる。</p> <p>成果：小中学生が漱石文学に関心をもち始めまた漱石についての地縁情報を習得することで地域愛の醸成が期待できる。</p> <p>内容：リニューアル中の漱石公園、夏目坂、生誕の地等を当会会員の誘導と解説により散策し、都電荒川線早稲田駅から貸切のレトロ電車「漱石号」で三ノ輪橋まで移動、車中で漱石原作の紙芝居の上演、漱石作品の朗読と解説を行う。帰路は雑司が谷で貸切電車を下車し、漱石の墓に参礼し解散する。</p> <p>実施日程：平成 19 年 8 月中の日曜日 3 回</p>

	<p>参加予定者： 区内小中学校の生徒とその父兄を1回に20組(40名) 合計60組(120名)</p> <p>実施場所： 漱石公園、夏目坂、生誕の地、都電荒川線、早稲田～三ノ輪橋～雑司が谷、 雑司が谷墓地</p> <p>予算額： 410,000円</p> <p>4. 「坊ちゃん列車」(SL)の区内運行イベント</p> <p>目標： 乗り物を用いて漱石作品を認識させ、作品を読むきっかけを与える。大人達には漱石作品を再認識させ、漱石顕彰と歴史的まちづくりの必要性のコンセンサスを得る。</p> <p>成果： 「坊ちゃん列車」(SL)がたくさんの人々を呼び込み、様々な効果があるということ、区民や行政に示すことができる。</p> <p>実施期間： 日曜日に開催し、1時間あたり6回程度運行する。</p> <p>従事者： 松山市米山工業から運転要員とメンテナンス要員の派遣を受ける。当該会員が乗車整理などを行う。</p> <p>参加予定者： 新宿区長及び松山市長に、最初の発車のテープカットに参加してもらう。</p> <p>実施場所： 新宿区内の公園</p> <p>予算額： 1,720,000円</p> <p>5. 漱石文庫の展示企画</p> <p>目標： 「漱石文庫」2千冊、ノート、書簡類の一部を借り受け、新宿歴史博物館で展示会を開催する。</p> <p>成果： 明治の文豪「夏目漱石」生誕の地を整備し、地域文化・歴史を掘り起こし、検証、保存、普及に努め、未来に拓けた心豊かな社会を実現し、次世代へ継承させる。 漱石文学の普及と小中学生徒達の国語力の向上に寄与する。</p> <p>実施日程： 19年10月初旬から2月末の間、2ヶ月間</p> <p>参加予定者：</p> <p>実施場所： 新宿区立歴史博物館</p> <p>予算額： 450,000円</p>
<p>事業の実施体制</p>	<p>1. 漱石を語る出前事業</p> <p>事業責任者 近藤 祐司(副担当 高石 喜美子) 映写技師1名 ボランティア5名(当会会員)</p> <p>2. 「漱石特設ギャラリー」の開設・運営</p> <p>事業責任者 加藤 利雄(副担当八木 正文) 専従者1名 ボランティア5名(当会会員)</p> <p>3. 「漱石号都電の旅」の企画・実践</p>

	<p>事業責任者 森田 千史(副担当黒内 美代子) 専従者 1名 ボランティア 3名(当会会員)</p> <p>4. 「坊っちゃん列車」(SL)の区内運行イベント 坊っちゃん列車走行場所を区に確保してもらう。 松山市米山工業から実際に蒸気で走行する「坊っちゃん列車」(SL)のレプリカの貸し出しを受ける。線路敷設は鉄道会社に委託する。</p> <p>事業責任者 長尾 剛(副担当小林 重光) 専従者 2名 ボランティア 5名(当会会員)</p> <p>5. 湍石文庫の展示企画 事業責任者 近藤 祐司(副担当 八木 正文) ボランティア 5名(当会会員)</p>																														
事業スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1四半期 4～6月</th> <th>第2四半期 7～9月</th> <th>第3四半期 10～12</th> <th>第4四半期 1～3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 湍石を語る出前授業</td> <td>10回</td> <td>6回</td> <td>10回</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>2. 湍石特設ギャラリーの開設・運営</td> <td></td> <td></td> <td>20日</td> <td>50日</td> </tr> <tr> <td>3. 湍石号都電の旅の企画・実践</td> <td></td> <td>3日間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 坊っちゃん列車の運行イベント</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td>5. 湍石文庫の展示企画</td> <td></td> <td></td> <td>2ヶ月</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12	第4四半期 1～3月	1. 湍石を語る出前授業	10回	6回	10回	4回	2. 湍石特設ギャラリーの開設・運営			20日	50日	3. 湍石号都電の旅の企画・実践		3日間			4. 坊っちゃん列車の運行イベント				2日間	5. 湍石文庫の展示企画			2ヶ月	
	第1四半期 4～6月	第2四半期 7～9月	第3四半期 10～12	第4四半期 1～3月																											
1. 湍石を語る出前授業	10回	6回	10回	4回																											
2. 湍石特設ギャラリーの開設・運営			20日	50日																											
3. 湍石号都電の旅の企画・実践		3日間																													
4. 坊っちゃん列車の運行イベント				2日間																											
5. 湍石文庫の展示企画			2ヶ月																												
地域や他団体との連携	<p>1. 湍石を語る出前事業 新宿区 区民への広報、他都市、東北大学への協力要請</p> <p>2. 「湍石特設ギャラリー」の開設・運営 新宿区 区民への広報、他都市、東北大学への協力要請 松山市、熊本市との提携(湍石グッズ、特産品の提供) 東北大学との提携(デスマスクを始め遺品等の複製作成協力) 新宿歴史博物館との提携(湍石山房模型等の短期貸し出し) 地元商店会(早稲田駅前)</p>																														

	<p>3 . 「 漱石号都電の旅 」 の企画 ・ 実践 新宿区 区民への広報 東京都交通局(レトロ電車漱石号の貸切運転)</p> <p>4 . 「 坊ちゃん列車 」 (S L) 区内運行イベント 坊っちゃん列車を走らそう会 (松山市) 鉄道友の会 (全国組織)</p> <p>5 . 漱石文庫の展示企画 東北大学との提携(デスマスクを始め遺品等の複製作成協力) 新宿歴史博物館との提携 (漱石山房模型等の短期貸し出し)</p>
<p>事業の展望及び今後の活動展開</p>	<p>漱石公園リニューアルが完成した後に、ここに建設される情報発信基地を中心に、これを運営管理する団体が次の通り事業展開する。</p> <p>1 . 漱石を語る出前事業 毎年定例化する。</p> <p>2 . 「 漱石特設ギャラリー 」 の開設 ・ 運営 特産品を除き情報発信基地で取り扱う。特産品の評判が良いときは公園の周辺での出展を検討する。</p> <p>3 . 「 漱石号都電の旅 」 の企画 ・ 実践 毎年定例化する。</p> <p>4 . 「 坊ちゃん列車 」 (S L) の区内運行イベント 漱石に関する節目のときに実施する。</p> <p>5 . 漱石文庫の展示企画 漱石に関する節目のときに実施する。</p>

- (5) 事業種別： 区からの課題 高齢者の能力発揮と生きがいの場づくり
 事業担当課 健康部健康いきがい課

事業提案企画書

新宿区負担額 5,000 千円 (事業の予算総額 8,750 千円)

提案団体名	特定非営利活動法人テラ・ガーデン新宿、特定非営利活動法人ゆうゆう共住懇
提案事業の名称	元気がでるシニアサロン (高齢者の居場所づくり)
提案事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が元気に顔を合わせられる居場所をつくる。 ・食事・日用品の宅配サービスで高齢者の利便性をはかる。 ・高齢者の雇用を創出する。
地域課題・社会的課題の緊急性・重要性 (区民ニーズを含む)	<p>1. 解決する地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2007年問題と言われ、団塊の世代が大量にリタイアし、新たな雇用の創出と生きがいが課題となる。 ・新宿区でも高齢者の孤独死が社会問題になっている。 <p>2. 区民ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の居場所が求められている。 ・高齢者の雇用の場が求められている。 ・高齢者の孤独死がない地域社会が求められている。 <p>3. その他</p>
問題解決の手法・形態	<p>1. 課題解決の方策</p> <p>1. 高齢者を中心として世代間交流ができるサロンをつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日替わりシェフ 様々な国の料理人・製菓学校の学生・主婦が日替わりで切り盛りするサロン。 2) 高齢者向けのメニュー 少量で単価の安いメニューも用意して高齢者が利用しやすくする。 3) 麻雀、囲碁、将棋、パソコン、絵手紙、楽器、料理、児童のためのそろばん・習字教室、健康セミナー、防災・防犯セミナーなどを行う。 <p>2. 高齢者の宅配サービス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 宅配サービス 体調が悪いときに食事や日用品の宅配サービスを行う。同時に安否確認を行う。 2) コンビニ・レストラン・日用品店と提携して経費を捻出する。地域通貨も検討する。 <p>3. デイサービス事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) きめ細かい家庭的サービスが受けられるデイサービスを展開する。 高齢者の買い物ツアーなど

	<p>2.問題解決の先駆性・先進性・アイデア・工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のパソコン教室で高齢者が生きがいを見つけて元気になっている実績がある。新奇性に富むサロンづくりで高齢者が気軽にたちよって交流が活発になる。 ・宅配サービスでは近隣の商店と提携して協力金で人件費をまかない、持続可能な事業にする。 ・宅配業務などは高齢者が担い、新たな雇用創出になる。 <p>3.その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は百人町地区で事業を行い軌道に乗り次第、他の地域に展開する。
<p>区の役割・責任分 担</p>	<p>1.提案団体が果たそうとする役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアサロンの運営は団体が行う。 <p>2.新宿区に期待する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報および事業紹介は新宿区が協力する。 <p>3.新宿区の担当の担当部署と何らかのかかわりがある場合は、その部署名、経緯及び内容</p>
<p>協働の必要性 (協働事業の効果・ 利点を含む)</p>	<p>1.協働の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関しての情報提供・広報において新宿区の協力が欠かせない。 ・新宿区としてある特定地域だけのサービス提供は困難である。 <p>2.協働することによる相乗効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宿区ではできない自由な雰囲気のサロンづくりができる。 ・同じような年齢の人が安否確認を行うので高齢者から受け入れられやすい。 ・NPOが運営するので近隣商店と自由な提携ができる。 ・新宿区が協働しているので区民の信頼性が増す。
<p>個別事業の内容 (目標・成果・実施期間・ 従事者・参加予定者・実施 場所・予算額などを取り組 む事業ごとに記載)</p>	<p>1. <u>サロンづくり事業</u></p> <p>目標：高齢者の居場所づくり・高齢者の雇用の創出</p> <p>成果：サロンを継続的に運営し、利用者数を確保する。</p> <p>場所：新宿区百人町 3-1-6 レストラン跡</p> <p>実施期間：19年7月～20年3月</p> <p>参加予定者：高齢者</p> <p>従事者：NPOスタッフ、シニアスタッフ、学生、調理師</p> <p>事業予算：8,230千円</p> <p>2. <u>宅配サービス事業</u></p> <p>目標：高齢者への弁当と日用品の宅配</p> <p>成果：在宅高齢者の見守りとサロンへの誘い出し</p> <p>場所：百人町</p> <p>実施期間：7月～20年3月</p> <p>参加予定者：高齢者</p> <p>従事者：NPOスタッフ、シニアスタッフ</p> <p>事業予算：260千円</p>

	<p>3. デイサービス事業</p> <p>目標：高齢者の買い物ツアーなどを企画</p> <p>成果：在宅高齢者の見守りとサロンへの誘い出し</p> <p>場所：百人町</p> <p>実施期間：7月～20年3月</p> <p>参加予定者：高齢者</p> <p>事業予算：260千円</p>
事業の実施体制	<p>1. シニアサロン</p> <p>運営はNPO 団体が行う。調理・フロアスタッフはネットワークの調理師および学生、シニアスタッフが行う。</p> <p>2. 宅配サービス</p> <p>シニアスタッフが行う。</p> <p>シニアスタッフはNPO 団体が雇用する。</p> <p>3. デイサービス事業</p> <p>運営はNPO 団体が行う。</p>
事業スケジュール	<p>19年4月～6月 アンケート調査・協力企業調査</p> <p>7月～9月 サロン開店準備</p> <p>10月～20年3月 サロン開店・宅配サービス・デイサービス</p>
地域や他団体との連携	<p>社会福祉協議会・生涯学習財団・福祉作業所・福祉関係のボランティア団体・商店会・製菓学校・町会・自治会と連携する。</p>
事業の展望及び今後の活動展開	<p>発足当初は百人町地域を拠点として展開し、順調に軌道に乗ってから、戸山地域、その他の地域に展開していく予定である。</p>

9 プレゼンテーション傍聴者の意見

「平成18年度協働事業提案プレゼンテーション」アンケート結果

(1) プレゼンテーションの実施について

大変よかった	よかった	よくなかった	回答者数
2	7	1	10
20%	70%	10%	100%

よくなかった理由：プレゼンテーション時間が短い

その他：傍聴が少ないのは残念

(2) プレゼンテーションを知った理由

新宿区広報紙	新宿区ホームページ	区施設のちらし、ポスター	提案団体の案内	知人に誘われて	その他	回答者数
7	2	0	1	0	0	10
70%	20%	0%	10%	0%	0%	100%

(3) 協働事業提案制度について

よい制度だと思う	改善が必要	その他	回答者数
5	2	2	9
56%	22%	22%	100%

改善が必要な理由：慣れている NPO には有利だが、小さい区民の団体には資料作りにも支援が必要では。

区として将来を見据えた力点に絞った提言としたい。

その他：プレゼンテーション形式で行なうことは、行政も事業者も緊張感があっている。

事業者側へのフォロー体制、チェック機能、何よりも継続性が大切である。

新宿区の協働具合（提供機能、提供工数）がわかるといいが。

(4) 事業提案に対してのご意見

東京 YMCA “liby（リビー）”

- ・すでに地域で活動していることがもう少し分かるとよかった（不登校の子を対象とした活動など）
- ・目的・コンセプトが明確。他セクターとの関わり、役割分担についても分かりやすい説明だった。
- ・ニート者は社会への引出しが最重点と考えます。いかにしてニート者を連れ出すかに力を入れるべき。NPO法人ニュースターを参考にしてほしい。（へも同様意見）

NPO 法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）

- ・今まで新宿でどのような活動があったかがわからなかった。
- ・新宿区内の地域が具体性に欠ける。

ゆったりーの

- ・リーダー講習会で、民と官が一緒に受けられたら面白いかもと思った。
- ・講座の参加費が 10,000 円は高いと思う。
- ・講座費用は子育て支援の実施の中から出す様な工夫が欲しい。

NPO 法人 みんなのおうち

- ・実際に活動しているからこそ実感している今の問題点が伝わってきた。
- ・区と協力して小さな子供、親のつながりから横浜中華街の様な町づくりに発展させてもらいたい。

NPO 法人 歴史・環境・まちづくり

- ・発掘の経験を生かした文化の継承に力点を置いて欲しい。

漱石山房を考える会

- ・特に Q&A でよく分かった。
- ・日野市でも新撰組まつり等イベントを行いました。グッズ販売、他の催しをからめて是非採算ある活動にして下さい。

NPO 法人 テラ・ガーデン新宿、共住懇、NPO 法人 ゆうゆう

- ・事業の継続性が曖昧で、どう協働体制がとれるかが見えてこない。ただ、事業者の気持ちはシニアの活性化の必要性を訴えていて関心があった。
- ・サロンでの交流からプチレストラン以外の雇用を生み出す事業を検討していくことで、高齢者の活用につながるのではと思います。

NPO 法人 ワーカーズコープ

- ・介護事業への具体性が出てきていなかった。
- ・講座の中にサポーター研修実施を取り入れて計画して欲しい。

NPO 法人 NPO人材開発機構

- ・コンサルとどう違うのか。地域に根ざした活動とは言えないように感じた。
- ・実際に区民に対し、貢献ある支援にねらいを絞った活動が必要。

新宿NPOネットワーク協議会

- ・千代田プラットフォームの様な区から移譲されたコミュニケーションプラットフォームの様なものになりたいですね。まちづくりと密接なつながりを持つものになりたい。

(5) その他のご意見

- ・評価基準の明確性がないように思った。
- ・新宿NPOネットワーク協議会に関心があった。継続的な取り組みになることを希望します。
- ・プレゼンテーション参加した10団体以外の応募についても、資料を配布してもらいたい。
- ・私たちも提案に参加したのだが、どこが悪かったのか、よかったところがあったのか聞いてみたい。自分たちが実際に活動している中で感じる問題点、壁が協働することで乗り越えられる可能性を感じている。
- ・各々の団体の思いややりたいこと、区(担当課)との協働により何を求めているのかは伝わってきた。ただ、具体的に区とどう関わり事業をするのかについて団体と担当課の考えを聞きたいものがいくつかあった。
- ・従来 of 活動資金助成と“協働事業”の違いがこのプレゼンからは明確に分からなかった。
- ・後半しか見られなかったが、新宿区に根ざした活動とは言えない事業に思えた。また、継続性事業を期待していたものの、課題を残したと思われる。
- ・全体的に見て区民への将来を考えた貢献度の高い提案が少なかった。プレゼンが10団体でしたが、時間をもう少し短時間にしたほうが良い。提案を聞いて、予め内容のプレ審査が必要ではと感じました。
- ・初めての協働提案でしたが、色々と参考になりました。
- ・長期的な展望を考えたとき単年度予算がどういう位置づけになるのか、新宿区としての考え方・構想があるのか、新宿区はノーアイデアで提案者がそこも含めて提案することを求めているのか、その点が気になりました。

資料1

18年度 協働事業提案概要

課題名 文化・歴史:地域の文化・歴史の発掘 高齢者:高齢者の能力発揮の場と生きがいづくり			
	事業名/団体名	事業概要(提案団体企画書から抜粋)	事前シート作成部署
			課名
1	“歌舞伎町・下北沢研究”(フェスタ歌舞伎町2007の提案)/久保技術研究所	“歌舞伎町ルネッサンス計画”における“地域活性化プロジェクト”に対応し「歌舞伎町からの新たな文化の創造と発信。」シネシティ広場における“夏祭”提案」のスケルトンの作成を目的とする。この研究の為下北沢における若者文化の創造と発信の現状を下北沢の方々及び世田谷区役所の協力を求め、併せ行政のサポートの実態を調査研究し、歌舞伎町の文化の創造と発信に役立てる。	企画政策部歌舞伎町対策等担当 文化国際課
2	新宿区コミュニティプロデューサー研修カレッジ(区からの課題:高齢者)/特定非営利活動法人 森とでんえん倶楽部	団塊の世代を中心に60歳定年適齢者やその同世代の人びとの社会的関心を家庭や地域のくらし、区民の生活環境にいだない、自分の確かな居場所発見の機会を提供すると共に、今求められている安心・安全で心豊かな都市型コミュニティづくりの中心的担い手・プロデューサーを育成する研修カレッジを開校します。 プライドとスキルを身につけた有能なこの世代を地味で見返りの少ないコミュニティづくりに誘導することは、簡単ではありません。参加者の関心をどう引き出し、ベクトルをどう合わせるか衆知を集め、課題を共有するワークショップを演習活動で補いながら展開します。そうして今日の新宿区社会が求めているコミュニティづくりの中核としての人材創出を目指します。 町会・自治会のリーダーはじめ、地区協議会、区民会議、ボランティア活動家、社協、NPOなど草の根活動と協働してカレッジ展開します。	健康部健康いきがい課 地域文化部地域調整課
3	30代・40代のひきこもり・ニート青年による高齢者支援事業/特定非営利活動法人 すだち	都内在住のニートや引きこもり当事者の自助グループメンバーを中心に葬儀ビジネスを展開します。この葬儀ビジネスを通じて一人暮らしの高齢者の引きこもりの実態調査を行い、一人暮らしの高齢者の生活をサポートします。 この経済活動を通じ、社会参加および経済的な自立の足がかりを得ると同時に、培われた経営ノウハウを、私たちの団体だけでなく、ニート・引きこもり問題に取り組む他のNPOや自助グループにも還元してもらい、「雇ってもらおう」ではなく、「自分たちで仕事を創出する」という意欲を引き出します。ただし、社会経験に乏しい青年たちが、いきなりビジネスを展開するには様々な困難を伴うため、当NPOが事務や対外折衝などで、きめ細かなサポートを行い、事業の成功を目指します。	福祉部生活福祉課 地域文化部商工観光課 企画政策部企画政策課特命担当 健康部高齢者サービス課
4	中学卒業後からの青年支援対策/東京YMCA“liby(リビー)”	一般に「ニート」と呼ばれている人達のように、生き方を模索し、将来に不安をいだいている青年たちは多い。そのような彼らに対して、その分野で活動しているliby(リビー)が区と協働で窓口を開き、彼らの受け皿として次のような事業を行い、支援することを目的とする。 1. 中卒以降の青年の受け皿づくり 2. 講演会の実施 3. 運営協議会の開催 4. 情報発信	福祉部子ども家庭課
5	ニート状態の若者の社会参加支援事業/特定非営利活動法人NICE	増加するニート状態の若者は、その状態が長期化すると社会的孤立につながりが強まり問題はさらに深刻化する。当事者だけの問題ではなく、次代を担う若者の停滞は、地域の活力の低下、将来的な財政負担につながる恐れもあり、早急な対応が必要である。 主に区内のニート状態にある若者に対して、アウトリーチから段階的に支援をはじめ、ボランティア活動を軸に、人、地域とのつながりを再構築するとともに、当事者が新しい経験から、自信や意欲を高めニート状態から抜け出せるようにサポートする。地域の力を生かし、若者を育てる。協働を通じ、その仕組みづくりを目指す。	福祉部子ども家庭課
6	楽しく健康に生きる元気な街作り事業~いきいきと暮らす工夫~/高齢者の暮らしを考える会・あなたの手 & 特定非営利活動法人ウエルエイジングハウス研究会21	住居・日常生活に潜む危険を取り除き、地域コミュニケーションを活性化し、住民が楽しく健康で安全に生きられる街づくり事業	区長室危機管理課 健康部高齢者サービス課
7	(仮称)生きがいプラザ運営事業(区からの課題:高齢者)/特定非営利活動法人住環境創造支援協会	1) 元気な高齢者を増やし、「介護予防」や「生きがいづくり」を増進させる各種活動が行える場の運営。 2) 高齢者が心身ともに元気になり、楽しく語らい集い、居心地よく感じるができる場の運営 3) 高齢者が、今まで培ってきた技能や知識を活かした商品を生産し、販売が出来る場の運営。	健康部健康いきがい課

8	孫育て講座「専業祖父講座」の運営 認定資格「ソフリエ」の授与/特定非営利活動法人 エガリテ 大手前	1. 出産育児期の夫婦の父親に孫育て支援のきっかけを作る講座である。	福祉部子ども家庭課	
		2. 「団塊の世代」の男性(来年度から大量の定年退職が始まる)に、定年後生活の一部としての孫育て支援の意欲が見られるが、保育などの知識・技能・経験に乏しく、周囲の理解もないのが現状である。		総務部総務課(男女共同参画・平和担当)
		3. この潜在意欲を活性化するために、孫育て講座を開催し、修了者に認定資格「ソフリエ」を授与することで、きっかけ作りを作り出すもの。 4. 男女共同参画の一形態としての観点からも推進したい。		健康部健康いきがい課
9	公教育に生かす演劇の教育力/特定非営利活動法人あそびと文化のNPO 新宿子ども劇場	地域の学校の中で、子ども達のコミュニケーション能力の低下などで起きる授業運営の困難や地域、家庭の教育力の差による教育格差が問題になっています。外国人を含め、多様な育ちの子どもたちの教育を担う地域の公立校にこそ、新たな教育の手法が求められているといえます。 私たちはこれまでの活動の実践を踏まえ、子どもたちの創造性やコミュニケーション能力、文化・芸術に対する感性を養い、地域社会の中でよりよく生きる力を育むために、表現教育や総合芸術とも言われる演劇の力が、通常の公教育の中に生かされていくための先駆的な事業をしたいと考えています。 具体的には、区立小学校より実施希望を募り、年間6校程度で、学校の希望や実情に応じて、表現教育家を派遣してのワークショップ7回程度(教師向け1回を含む)と演劇鑑賞を実施する計画です。	教育委員会教育指導課	
10	高齢者温圧・健康回復科学セラピー資格取得と就業・創業の支援(区からの課題:高齢者)/特定非営利活動法人アクティブシニア応援団 PPK	1、団塊世代を含む高齢者に資格取得で就業・創業の支援 温圧療法資格及び健康回復科学講座の学習 資格取得後施療及び講座開設	健康部健康いきがい課	
		2、高齢者の健康推進 温圧療法の施療で痛みを和らげる、楽にする 健康回復科学講座で生活習慣病及び未病の予防	健康部健康高齢者サービス課	
11	新宿ぐらんパ・まおはなし隊養成講座(区からの課題:高齢者)/NPO法人ケンパ・ラーニング・コミュニティ協会	昨今は核家族化し、3世代同居が少なくなった。この事業において子供たちは、高齢者とふれあう中で、高齢者が人生経験の宝庫であることを学び、高齢者は子育て支援の担い手となる。この事業は地域内で助け合える人間関係の構築を目的とし行う。 概要は新宿区内の子どもたちに語り継ぐシルバー隊(おはなし隊)を結成し新宿の昔話、戦争の体験談、夏目漱石の朗読などを、区内の幼稚園、小学校、中学校、小児病棟や施設、高齢者の施設にもボランティアとして伺い語り伝える。これらの活動によって、高齢者の社会参加と生きがいづくりを目指し、孤立しがちな高齢者に横のつながりができると確信する。 この活動のために、人前で話す話し方、簡単な演技、体力維持のためのストレッチ運動、民話、体験談の勉強会を行う養成講座を開催します。この活動は事業終了後も高齢者がNPOと連携をとりながら、自主的に継続して活動ができることを目指し養成活動をするものとします。	健康部健康いきがい課	
			福祉部子ども家庭課	
12	外国人との共生を進めるための映像制作と普及活動(区からの課題:文化歴史の発掘)/特定非営利活動法人新宿おおくぼまちづくりの会	現在、新宿区民が直面する重要課題の一つに、外国人との共生・共住があります。本事業はこの課題への取組みとして、「アジアと新宿を繋ぐ人と文化の歴史」に新たな光を当て、その成果をドキュメンタリー・ビデオに制作します。ビデオの制作は、当会の会員である映画監督や地域の歴史に詳しい文筆家、地域づくりアドバイザー、住環境コーディネーターなどを中心に、企画・構成台本・撮影・編集から完成までの作業を行ないます。 完成作品は、区と当会と区民を一体とした上映会を開き、のちに、学校教材、社会教育教材として広く諸機関施設に提供します。ビデオ制作とその上映・普及活動を行なうことで、外国人との共生を目指す区民活動の一助とします。	地域文化部文化国際課	
13	地域日本語指導員養成・外国人親子日本語学習支援事業/特定非営利活動法人全国日本語教師会	二年にわたり、全国日本語教師会では「夏休み親子日本語教室」を実施している。これは主に新宿区の外国人児童・生徒とその保護者を対象としたもので、日本に来たばかりで学校の授業についていけない、周囲とのコミュニケーションがとれず、友達ができない等の諸問題解決の糸口になれば、という趣旨で行われている。 この度の提案では「夏休み」という短期間ではなく、継続的な視点で児童・生徒への日本語教育と国際交流を行い、日本人と外国人の相互理解を図り、共生を目指すものである。 また、夏休み親子日本語教室開催前から学校の担当教員の教室見学の申込などもあり、はからずも学校の担当教員の関心の高さもうかがえた。この点からも担当教員への日本語教育の指導法を教授することで、学校内のみならず、地域における支援を通し、効果的に継続的な日本語教育を行えるものと考えている。	地域文化部文化国際課	

14	子どもの健全育成を目指す外国籍家族と地域家族の共生作り/特定非営利活動法人みんなのおうち	第一案事業：平成17年度新宿区NPO助成「外国籍家族と地域家族の愉快的週末ツアー」の拡充事業。上記事業の実施結果、外国籍家庭も日本人家庭と同じ子育ての悩みがある事が分かった。上記事業を拡充する事で、いろいろな子や親が大事にされ尊重される場、子どもの育ちや親の居場所を保障する場を確立する。第二事業案：児童館を利用した中学生への高校進学支援事業。現在、榎町児童センターで外国籍中学生に日本語と教科指導を実施に併せ児童センターを居場所とする地元中学生に教科指導を実施している。これら中学生の指導者を養成し、学習の場を確立する事業。	地域文化部文化国際課
			福祉部子ども家庭課
15	区民学芸員育成の第一歩としての(仮称)文化・まち歩きクイズラリー(区からの課題:文化歴史の発掘)/特定非営利活動法人歴史・環境・まちづくり	【目的】 当NPO法人は、文化財の保護・活用を通じた地域活性化に貢献すべく、「区民学芸員」など人材の育成を目指している。そこで、郷土愛の涵養。歴史史料・文化財の保護・活用の機会を増やすこと。文化財保護・活用事業の牽引役としての「区民学芸員」の育成を通して地域課題の解消・軽減を図り、より住みやすいまちづくりおよび地域活性化の推進に寄与することを目的とする。 【事業の概略】 区民学芸員が自ら主体的に事業を行うことができるようになるには、2・3年から5年の年数をかけての段階的な知識・技術の修得などが必要であると考えている。そこで、初年度にあたる今回は、1. (仮称)文化・まち歩きクイズラリー事業。2. 区民学芸員育成講座事業の2つの事業を展開し、区民学芸員候補の発掘および育成の第一段階。新宿区の文化・歴史の普及啓発活動を図る。	地域文化部文化国際課
			教育委員会生涯学習振興課
16	新宿区市民活動支援員養成事業/特定非営利活動法人NPO人材開発機構	「新宿区市民活動支援員養成事業」は新宿区在住の区民及び新宿区に所在する企業に勤務する人たちに対して、市民活動団体の支援をする「新宿区市民団体支援員」を養成する講座を開講し、市民活動に関する知識や参加する意義等を学び、その後の支援員活動を通して市民活動団体の活性化を図る事業である。 また、事業を通して区民や新宿区の勤労者の生きがいづくりや能力の発揮場所を提供し、新宿区民に必要とされている市民活動サービスの充実を図り、多様な区民のニーズにこたえることを目的とする。	地域文化部地域調整課
17	国際理解のための海外シニアボランティア養成講座及び区立小中学校の「総合的な学習の時間」への授業支援～国際理解を深め、豊かな人間造りをめざす～/特定非営利活動法人シニアボランティアの経験を活かす会	「海外シニアボランティア養成実践講座」は、いわゆる団塊の世代がこれから定年を迎え、地域に帰ってくる2007年問題に対応します。「定年後の社会貢献を海外で」と考える人々の夢の実現のお手伝いをします。些かの語学能力を持ち、日本の途上国支援の先頭に立ちたいという方に対して、数多くの海外シニアボランティアを派遣しているJICAをはじめ、日本シルバーボランティアズ、OISKA(オイスカ)、中日友好協会などの団体のボランティア養成のための実践講座とします。 「夫婦で海外へ」と言う方は夫婦一緒に受講してもらいます。夫婦は当然、夫の派遣に夫人が付いていく、又逆に、看護師、日本語教師などでは妻の派遣に夫が付き添って協力する事も多く、それぞれ家族手当が支給されます。 「区立小中学校の『総合的な学習の時間』の授業協力」は21世紀に入って、世界は紛争、貧困、環境破壊など地球規模で考えなければならない問題が深刻化しています。その中で日本は、国際社会の一員として世界の国々と協調し、問題解決に取り組む使命を帯びています。その中において日本の学校教育では「総合的な学習の時間」の内容として、国際理解、情報、環境等が取り上げられています。その授業の中で、我々のグループは、海外で得た経験や体験を活かし、先駆性、独創性ある方法で授業を支援していきます。	教育委員会教育指導課
			地域文化部文化国際課
18	高齢者支援事業/特定非営利活動法人ボラネット新宿	目的:人との会話や外出の機会の少ない高齢者等のふれあい、交流、困りごと解決の支援活動をとおして、人為的に向う三軒両隣りを作る等、地域コミュニティの醸成に資することを目的とする。 概要:1. 電話訪問事業 電話訪問を希望するひとり暮らし高齢者に定期的に電話をかける。会話の時間は10分程度とし、要点を記録しておく。対象者数は午前10名、午後10名を目安とする。 概要2. 困りごと相談・支援事業 行政機関等の専門的相談窓口は多数設置されているが、高齢者にとって説明を受けただけで問題の解決をはかることは難しい。そこで、解決に向けて支援する相談窓口を設ける。また、通院の付添い、薬取り、蛍光灯の交換等、簡単なボランティア活動を組織的に行う。 概要3. ふれあいサロン事業(食事作りを取り入れる) 1日10名以内で、週に4日調理室等を使用して行う。ここでは、高齢者もボランティアと一緒に食事作りをする。実施場所:1、2はことぶき館1館と西早稲田ふれあいプラザ。3は西早稲田ふれあいプラザ。	健康部高齢者サービス課

19	みんな学校に集まれ～中高年第二の仕事は熱帯雨林のような学校で～(区からの課題:高齢者)/特定非営利活動法人地域自立ソフトウェア連携機構	<p>本提案事業は、休日の小学校に小学生から高齢者までの多様な人々が集まって、さまざまな動植物が集まる熱帯雨林のようなコミュニティを作ることに、「高齢者の能力発揮と生きがいづくり」の場を実現しようとするものである。</p> <p>(事業1) 中高年能力発揮の場づくり事業 (事業2) 新宿区の伝統・歴史継承のための新宿シソーラス作成事業 (事業3) 子供の遊び場歴史マップ作成事業 (事業4) 新宿から全国へ、実務的な算数能力検定事業(事業5) オープンソース普及事業 (事業6) 自分史作成応援事業</p>	健康部健康いきがい課
			教育委員会生涯学習振興課
20	受身から問題発見・解決型の子育て支援者になるための講座/ゆったりーの	<p>ゆったりーのは、新宿区と協働で子育て支援施設を子育ての当事者を中心に区民自身が運営する子育て支援協働モデル事業を行っている。少子高齢化が進む中、全国的に子育て支援の活動も定着しつつある。新宿区もゆったりーをはじめ様々な型の子育て支援事業を行っているが、区が今後も協働という形で区民運営型の子育て支援を拡大していくのであれば、子育て支援者を養成し、底辺拡大を図る必要がある。</p> <p>同時に、これからはどのような活動が有効なのか、何が求められているのかといった「質」を問う段階になったといえる。本事業では、子育てや子育て支援に関心を持つ新宿区民が、自らの経験と関心に沿いながら、課題を見つけ、その解決に向けて自発的に子育て支援を行なうための講座を実施する。講座受講者は、今後、次世代育成支援行動計画や新宿区民会議の区民提案などに沿いながら、地元で具体的な活動ができるような講座をめざす。</p>	福祉部子ども家庭課
21	夏目漱石生誕140周年記念事業(区からの課題:文化歴史の発掘)/漱石山房を考える会	<p>夏目漱石生誕の地を拠点に、日本の近代文学に多大な貢献を果たした功績、優れた文学作品が誕生した背景、作品の今日的意義、等を検証し、それらの情報を全国に発信させる。特に小中学生に対し、正しい国語力の学習をさせることにより、貴重な地域文化を次世代に継承させる。更に、新宿区、地域住民、東北大付属図書館と連携を基盤に区民の意識高揚を図ることで、未来に拓けた心豊かな市民社会の実現を目指して、事業提案を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小中学生向け漱石文学のアニメ作品の紹介と会員による漱石を語る出前授業 2. 空き店舗を利用した「漱石特設ギャラリー」の開設・運営 3. 都電荒川線を利用した「漱石号都電の旅」の企画・実践 4. 「坊ちゃん列車」(SL)の区内運行イベント 5. 東北大付属図書館との連携による漱石文庫の展示企画 	地域文化部文化国際課
22	元気ができるシニアサロン(高齢者の居場所づくり)(区からの課題:高齢者)/特定非営利活動法人テラ・ガーデン新宿	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が元気に顔を合わせられる居場所をつくる。 ・定期的に電話・メール・訪問で高齢者に安否確認を行い、孤独死を無くす。 ・食事、日用品を宅配することで安否確認と高齢者の利便性をはかる。 ・高齢者の雇用創出をはかる。 	健康部健康いきがい課
23	課題解決型コミュニティ創出事業/特定非営利活動法人CRファクトリー	<p>人々が愛着を感じるコミュニティを力強く運営していく意志あるリーダーを育成・支援するセミナー・勉強会や、コミュニティを様々なかたちでサポートするサービスを通して、区民が楽しみ、学び、交流する場(=愛着を感じるコミュニティ)を創出/支援することにより、新宿区が抱えている諸問題の解決をはかる。</p>	地域文化部地域調整課
24	耐震補強推進事業/早稲田商店会	<p>首都直下の大地震が起こると想定され、耐震偽装の問題の発覚により、住宅の耐震性への関心は高まっている。しかし、区が支援制度を拡充しているにもかかわらず、区民はいくつかの理由を挙げて踏みとどまっている現状である。区内に26000棟あるとされる耐震性の低い木造住宅の耐震補強を推進し、地域安全と、区民の生命と財産を守る防災力の向上を目的として、耐震補強推進協議会を設立し、多面的で身近なアプローチによる啓発活動を行う。本年度事業では、住まいの安全地域集会を各地で開催して、区民の意識を高め、「住まいの安全アドバイザー」を養成し、身近な相談員として地域ぐるみの耐震補強推進のための活動を支援していく。</p> <p>一方では、施工業者と診断士の技術レベル向上のための勉強会を開催し、市場育成のための提案活動を行っていく。</p>	都市計画部建築課
			区長室危機管理課

25	個人情報保護法の理解・啓発事業 - 区民と医療、介護施設との安心安全なおつきあい - / 特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター	医療分野における個人情報保護の理解・啓発を目的とし区民、クリニック、病院、薬局、介護施設などの対象別にわかり易いセミナーを開催する。またインターネットを利用した事例ビデオ配信を合わせて企画し時間や場所に制約されない広い啓発を目指す。	区長室区政情報課
			健康部計画推進課
26	高齢者の主体的な参加と介護予防に係わる担い手作り事業(区からの課題:高齢者) / 特定非営利活動法人ワーカーズコープ	介護保険の改正に伴い、これまでの要介護の軽度の利用をしていた高齢者は要支援の認定を受け、介護予防や自立支援に向けた取り組みが地域の課題になっている。中でも高齢者の活動の場づくりを地域の高齢者に係わる課題としてサポーターの要請の主体づくりを進めたい。また、あわせて、ケアワーカーを対象に介護予防の専門性を身につけ、自立支援のケアや地域の介護予防の担い手になることを応援したい。	健康部健康いきがい課
			健康部高齢者サービス課
			健康部介護保険課
27	筆筒地区における夏目漱石の足跡等に関する検討調査(区からの課題:文化・歴史) / 筆筒地区協議会	当会は都市計画マスタープラン「筆筒地区 まちづくり方針」において漱石文学の理解に資するため、区民や文学愛好者等に漱石およびその時代の背景の資料を提供し、漱石山房を核として文学散歩コースを設定し整備していくことを提案しています。 本調査の内容は夏目漱石の生誕 140 年にあたり進められている漱石山房の整備に合わせて、夏目漱石の業績や紹介等に資するため、筆筒地区における文学者や人々との交流関係、街並み、生活環境、当時の外濠、神楽坂、神田川の景観等について調査し、晩年の漱石がどのような環境で生活していたかを浮き彫りにし、文学活動において筆筒地区がどのような意味を持っていたかを明らかにするものです。 また、このような足跡を文学散歩コースにおいて、文学愛好者や区民に伝達するための望ましい方法、内容、実現方策等について検討を行うものです。本調査は新宿区と協働し、当分科会が研究者や関係者等と連携しあいながら資料収集等を行うものです。	地域文化部文化国際課
28	病児保育問題解決を通じて子育てと仕事の両立可能な新宿区へ～子どもレスキューネット事業～ / 特定非営利活動法人フローレンス	こどもが熱を出すと保育園では預かれず、仕事を休まなければならない。これが子育てと仕事を両立する家庭の7割が抱える「病児保育問題」である。病児保育施設は全国保育所の約2%しかない。それは病児の発生が不定期であるなど赤字経営になり易いからである。フローレンスは、施設を持たず、地域の子育て経験者が小児科医のバックアップのもとに病気のこどもを預かるという新しい病児保育モデルを生み出し、病児保育サービスを江東・中央区で実行している。共働き家庭が年々増え続ける新宿区において病児保育の必要性が強まっているため、地域の力でこれを解決し新宿区を子育てと仕事の両立可能な地域に近づけることが今回の目的である。	福祉部保育課
			福祉部管理課
			健康部計画推進課
			総務部総務課(男女共同参画・平和担当)
29	新宿駅周辺整備における公民協働まちづくりの促進(合意形成) / 新宿研究会	新宿区は「歩きたくなるまちづくり」を掲げ、新宿駅周辺について回遊性を高めるため、東西自由通路と駅前広場の整備、新宿大通りのモール化、サブナード延伸など快適で魅力的な歩行者ネットワークの整備が計画され、また区民会議においても、歩行者優先地区の設定や新宿御苑、新宿駅、新宿中央公園を結ぶ快適な歩行者空間(「ポッド」)の整備が提言されています。 しかしこれら街づくりは行政と地元関係者が街づくりビジョンを共有し、合意が形成されて、行政と民間とが適切に連携、協働(「パートナーシップ」)することによってはじめて実現するものです。 本提案事業(活動)は、快適で魅力的な新しい新宿駅周辺の街づくり、なかでも新宿大通りのモール化を軸とする街づくりに向けて、関係者との合意形成を新宿区と協働して推進しようとするものです。その具体的な事業(活動や検討作業)は以下の通りです。 街づくり課題と整備目標、整備イメージの共有による合意形成合意形成に向けて、専門的立場から、必要事項の検討と資料の作成、提案、討議 - 街づくりの目標・整備イメージ、人と車の交通マネジメント(人の流れ、車のOD、駐車場の管理)、整備後の街(公共空間)の維持管理、運営、資金調達の仕組み、組織体制など	都市計画部都市計画課
30	市民活動支援のWebサイトの立ち上げとその運営 / 新宿NPOネットワーク協議会	新宿区内で活動するNPO団体、公益的活動を目的とする市民活動団体、ならびに今後地域活動の中心的役割を担うことが期待されている地区協議会などが、相互連携し、効果的な成果をあげやすくするためには、互いの活動情報を日常的且つ簡便な手法によって発信・共有化することが重要である。このためには、大量の情報を処理し、また双方向に活用可能な協働ホームページの活用が有効出ることから、インターネット上に情報交流Webサイトを立ち上げて運営する。	地域文化部地域調整課

資料2

協働事業提案課別事前シート作成件数

	部	担当課	件数
1	区長室	区政情報課	1
2		危機管理課	2
3	企画政策部	企画政策課特命担当	1
4		歌舞伎町対策推進担当	1
5	総務部	男女共同参画・平和担当	2
6	地域文化部	地域調整課	4
7		文化国際課	8
8		商工観光課	1
9	福祉部	管理課	1
10		子ども家庭課	6
11		保育課	1
12		生活福祉課	1
13	健康部	計画推進課	2
14		健康いきがい課	8
15		高齢者サービス課	5
16		介護保険課	1
17	都市計画部	都市計画課	1
18		建築課	1
19	教育委員会	教育指導課	3
20		生涯学習振興課	2
合計			52

資料3

18年度協働事業提案一次審査結果					
	申請 番号	団体名	事業名	一次(書 類)得点	事業種別
1	22	テラ・ガーデン新宿・ 共住懇・ゆうゆう	元気がでるシニアサロン	301	区課題 (高齢者)
2	15	歴史・環境・まちづくり	区民学芸員育成の第一歩としての (仮称)文化・まち歩きクイズラリー	286	区課題 (文化・歴史)
3	16	NPO人材開発機構	新宿区市民活動支援員養成事業	279	
4	4	東京YMCA“liby(リビ ー)”	中学卒業後からの青年支援対策	271	
4	21	漱石山房を考える会	夏目漱石生誕140周年記念事業	271	区課題 (文化・歴史)
6	20	ゆったりーの	受身から問題発見・解決型の子育て 支援者になるための講座	264	
7	5	NICE	ニート状態の若者の社会参加支援 事業	263	
8	26	ワーカーズコープ	高齢者の主体的な参加と介護予防 に係わる担い手作り事業	261	区課題 (高齢者)
9	14	みんなのおうち	子どもの健全育成を目指す外国籍 家族と地域家族の共生作り	258	
10	30	新宿NPOネットワー ク協議会	市民活動支援のWebサイトの立ち 上げとその運営	254	

資料 4

18年度協働事業提案最終結果				
	団体名	事業名	最終得点	事業種別
1	東京 Y M C A “ liby (リビー) ”	中学卒業後からの青年支援対策	262	
2	テラ・ガーデン新宿・共住懇・ゆうゆう	元気がでるシニアサロン	242	区課題 (高齢者)
3	漱石山房を考える会	夏目漱石生誕140周年記念事業	236	区課題 (文化・歴史)
4	ゆったりーの	受身から問題発見・解決型の子育て支援者になるための講座	220	
5	みんなのおうち	子どもの健全育成を目指す外国籍家族と地域家族の共生作り	217	条件付採択